

東京2020 文化オリンピックアドレポート



東京 2020 組織委員会 会長メッセージ

東京 2020 大会は、新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、史上初めて延期され、世界中の人々の暮らしが大きく変化した1年を経て開催されました。大会を無事に終えられたのは、安全・安心な大会開催の実現に向けて、国、東京都、関係自治体、そして、IOC、IPC、大会パートナー、その他多くの大会を支えていただいた皆さまの、多大なるご理解、ご協力のおかげです。心から感謝を申し上げます。

オリンピックは、スポーツを文化、教育と融合させ、生き方の創造を探究することで、人間の尊厳の保持に重きを置く平和な社会の推進を目指すものであり、これがスポーツの祭典であると同時に、平和の祭典と言われる所以でもあります。文化芸術は、人種、肌の色、ジェンダー、言語、宗教、政治、障がいの有無を超えて、様々な人々が、異なる個性を輝かせて感動をもたらし、その感動はあらゆる境界を超えます。

東京 2020 大会では、様々な組織・団体が主体的に参画する活動を後押しするため、2016 年から「東京 2020 参画プログラム」として幅広く認証を行い、国内の様々な文化プログラムが、大会の文化オリンピックアードとして実施されました。

また、その集大成として、新型コロナウイルス感染症により生じた分断を乗り越えて、スポーツと共に平和な社会の実現に貢献することを目指し、2021 年 4 月から 9 月にかけて大会の公式文化プログラムである「東京 2020 NIPPON フェスティバル」を展開しました。組織委員会としては、「東北復興」や「参加と交流」、「共生社会の実現に向けて」というテーマを掲げプログラムを実施し、日本が誇る文化芸術とともに、大会と一体となったメッセージを世界に発信しました。これらのプログラムにおいては、オンラインライブ配信による新しい形の文化プログラムを実現し、国内外の 300 万人以上の方々にご視聴いただくことができました。

今般、これらの取組と成果について、「東京 2020 文化オリンピックアードレポート」として取りまとめましたので、ご報告いたします。

結びになりますが、東京 2020 大会では、多くのアスリートが活躍し、世界中の人々に勇気や希望、感動を届けることができました。文化芸術においても、様々なアーティストたちがそれぞれの力や思いを表現し、まさにオリンピックの理念を体現する大会であったと確信しています。東京 2020 大会から生まれた成果や経験が次代に引き継がれ、より良い社会の実現に貢献できることを期待しています。



橋本 聖子

東京 2020 組織委員会 会長

橋本 聖子

東京 2020 組織委員会 文化・教育委員会 委員長メッセージ

オリンピック競技大会の理念をあらわす『オリンピック憲章』の冒頭に記されている「オリンピズムの根本原則」のなかに「オリンピズムは肉体と意志と精神のすべての資質を高め、バランスよく結合させる生き方の哲学である。オリンピズムはスポーツを文化、教育と融合させ、生き方の創造を探求するものである。その生き方は努力する喜び、良い模範であることの教育的価値、社会的な責任、さらに普遍的で根本的な倫理規範の尊重を基盤とする。」という一節がある。

この基本的な理念を具体化するために東京2020組織委員会は2015年から文化・教育プログラムの検討を開始し、あわせて文化や教育の有識者をメンバーとする文化・教育委員会を設けた。委員会は文化プログラムのあり方とさまざまな企画のモデルなどを検討し提案してきた。それぞれの分野で先頭を走る委員の顔ぶれはまさに多士済々で、発せられる意見の一つ一つが説得力と魅力に富んでいた。その多様かつ広範な提案を実施可能な範囲と時間的制限の中に落とし込むため委員全員で知恵を絞ったことも貴重な体験であった。

しかし、アントニオ・グテーレス国連事務総長が「第二次世界大戦以来、最大の試練」と指摘したCovid-19はまさにパンデミックと化して、現在もなお多くの国々がその対応に明け暮れている。パンデミック禍のなかにあって、この試練を人類は克服していかなばならないという国際社会が共有する課題のもと、新たな生き方の創造を探求するという、まさにオリンピックが掲げる理念の実現に文化・教育委員会は取り組むことになった。したがって、感染の拡大や拡散の防止対策を施した上での文化プログラムの実施には多くの困難が伴い、やむを得ず中止になったプログラムもあったが、関係者の熱意と努力によって当初の目的を成し遂げることができたのではないかと文化・教育委員会は考えているが、その評価はより多くの方々の判断と10年後、20年後の歴史的判断に委ねるしかない。



文化・教育委員会 委員長
青柳 正規

目次

I	オリンピックと文化	05
1	文化オリンピックの歴史(芸術競技から現代の文化プログラムへの変遷)	05
(1)	クーベルタン男爵の情熱と文化オリンピック	05
(2)	「芸術競技」から「芸術展示」、文化プログラムの継承	05
(3)	芸術の潮流とオリンピック	05
II	東京 2020 文化オリンピック	07
1	基本的な考え方	07
2	東京 2020 文化オリンピックのコンセプト.....	07
3	東京 2020 参画プログラム.....	07
4	各団体における取組	08
(1)	東京 2020 組織委員会による取組.....	08
(2)	国による主な取組	12
(3)	東京都による主な取組	16
(4)	地方自治体等による主な取組	18
5	成果・レガシー.....	19
III	東京 2020 NIPPON フェスティバル	21
1	「文化の祭典」としての東京 2020 NIPPON フェスティバル	21
2	東京 2020 大会延期と東京 2020 NIPPON フェスティバルの 2021 年実施に至る経過	23
3	主催プログラム	24
	くしあわせはこぶ旅～モッコが復興を歩む東北から TOKYO へ～ Presented by ENEOS>	24
	くわっさい>	35
	<ONE - Our New Episode- Presented by Japan Airlines>	39
	【MAZEKOZE アイランドツアー】	39
	【Our Glorious Future～KANAGAWA 2021～カガヤク ミライ ガ ミエル カナガワ 2021】	45
4	共催プログラム	51
(1)	選定プロセス.....	51
(2)	事業の紹介	52
(3)	本事業の成果・レガシー	65
5	フェスティバルパートナー.....	66
6	文化・教育委員会.....	67

I オリンピックと文化

1 文化オリンピックの歴史

（芸術競技から現代の文化プログラムへの変遷）

<スポーツとアートの競演>

（1）クーベルタン男爵の情熱と文化オリンピック

19世紀末、フランスの教育者ピエール・ド・クーベルタン男爵は、当時、発掘された古代ギリシャの「オリンピック祭典競技」をスポーツ教育の理想形ととらえていました。そこでクーベルタン男爵は、世界平和を希求するスポーツの祭典「近代オリンピック」復興を提唱し、1894年のパリ国際アスレチック会議で正式に「オリンピックの復興」が決議されました。また同年、国際オリンピック委員会（IOC）を設立し、1896年、第1回アテネ大会が開催されました。そして男爵の強い希望により、古代の文化オリンピックの精神にならい、1912年の第5回ストックホルム大会で初の「芸術競技」を同時開催し、芸術分野5種目で作品が競われ、その後も継承されました。

今では文化プログラムについて、「オリンピック憲章」の根本原則に「オリンピズムはスポーツを文化、教育と融合させ、生き方の創造を探究するものである」（抜粋）とあり、第5章39項には「組織委員会は少なくともオリンピック村の開村から閉村までの期間、文化イベントのプログラムを催すものとする」（抜粋）と明記されています。

（2）「芸術競技」から「芸術展示」、文化プログラムの継承

芸術競技は1948年の第14回ロンドン大会まで行われましたが、審査基準の難しさや費用面などの問題から1952年の第15回ヘルシンキ大会からは「芸術展示」と模様替えをして、1988年の第24回ソウル大会まで続けました。さらに1992年の第25回バルセロナ大会では、それまでの大会開催年のみの実施であった文化プログラムを拡充し、4年間に渡って展開しました。以降、複数年の実施が定着し、今日の文化プログラムへと至っています。

■文化オリンピックの歴史

アテネ1896大会（第1回）ーロンドン1908大会（第4回）	実施なし
ストックホルム1912大会（第5回）ーロンドン1948大会（第14回）	芸術競技としての文化プログラム
ヘルシンキ1952大会（第15回）ーソウル1988大会（第24回）	芸術展示としての文化プログラム
バルセロナ1992大会（第25回）ー東京2020大会（第32回）	現代の文化プログラム

（3）芸術の潮流とオリンピック

19世紀末から20世紀初頭にかけてヨーロッパで勃興した芸術運動「アールヌーボー」は、近代的な工業化が進む社会に対して、自然や人間性の復興を強く主張する有機的な表現手法でしたが、これは当時の建築や装飾、競技施設や印刷物にも色濃く反映されました。奇しくも「芸術競技」が始まった1912年ストックホルム大会のポスターは、アルフォンス・ミュシャやウィーン世紀末絵画のクリムトなどの影響が見受けられます。その後、2度の世界大戦で社会が大きく変容するなか、芸術の潮流はアール・デコからバウハウス運動を経て「モダン・デザイン」の時代を迎えます。1952年のヘルシンキ大会から文化プログラムは「芸術展示」に模様替えをし、大会ポスターもシンプルでシンボリックな現代的デザインのものとなりました。目まぐるしく移り変わる新たなアートの時代、各大会の文化プログラムはより個性的なものとなっていきました。

＜日本をめぐるオリンピック・アート年表＞

- 1894年 パリ国際アスレチック会議でクーベルタン男爵提唱の「オリンピックの復興」を決議、国際オリンピック委員会(IOC) 創設も決議される
- 1896年 近代オリンピック第1回アテネ大会開催、五輪マークはクーベルタン男爵が考案
- 1900年 第2回パリ大会、パリ万国博覧会と同時期に開催。日本もパビリオンを出展
- 1912年 第5回ストックホルム大会、日本選手団初参加(陸上短距離走・三島 弥彦、マラソン・金栗 四三) 初の「芸術競技」同時開催が始まる
- 1932年 第10回ロサンゼルス大会、芸術競技に日本は46 作品で初参加し初入賞「虫相撲」長永 治良が佳作入賞した
- 1936年 第11回ベルリン大会、芸術競技で日本初メダル受賞 日本は79 作品を出品、2個の銅メダルを受賞
- 1952年 第15回ヘルシンキ大会、日本は戦後初16 年ぶりに参加。本大会から「芸術展示」スタート
- 1964年 第18回東京大会、日本・アジア初のオリンピック開催で多くの文化プログラムを実施。第一級の芸術展示をめざし、古美術・浮世絵・日本画・油絵などの展覧会や、雅楽・能楽・歌舞伎・人形浄瑠璃・バレエ・クラシック等の記念公演が行われた
- 1972年 冬季第11回札幌大会「芸術行事」として、雪まつりや演奏会、版画・浮世絵展、能楽・狂言・歌舞伎等の公演が行われた
- 1998年 冬季第18回長野大会「長野オリンピック文化・芸術祭」として音楽・古典芸能・フェスティバル等、多彩なイベントを開催

Ⅱ 東京 2020 文化オリンピック

「Ⅰ オリンピックと文化」で述べましたとおり、オリンピック憲章で大会組織委員会は文化プログラムを実施することが義務付けられています。オリンピックがスポーツの祭典であると同時に、文化の祭典でもあると言われる所以です。東京 2020 大会に向けて、全国津々浦々にオリンピック・パラリンピックムーブメントを広げるため、東京 2020 大会では、リオデジャネイロ 2016 大会以降、国、地方自治体、文化芸術団体、パートナー企業など、様々なステークホルダーと連携して、文化オリンピックを全国で展開しました。

1 基本的な考え方

- 文化は、スポーツと同じく、人々に感動を与え、豊かな人間性を涵養し、想像力と感性を育むなど、人間が人間らしく生きるための糧となるものです。
- これは、オリンピック・パラリンピックの精神に通じるものであり、オリンピック憲章においても、文化の重要性について、以下のように謳われています。
- 「オリンピズムは肉体と意志と精神のすべての資質を高め、バランスよく結合させる生き方の哲学である。オリンピズムはスポーツを文化、教育と融合させ、生き方の創造を探究するものである。その生き方は努力する喜び、良い模範であることの教育的価値、社会的な責任、さらに普遍的で根本的な倫理規範の尊重を基盤とする。」
- 文化オリンピックは、全国どこにいても、誰もがオリンピック・パラリンピックに参加することを可能にするものです。
- 文化オリンピックの様々な取組は、より多くの人々をオリンピック・パラリンピックに巻き込んでいくこと、全国各地で、オリンピック・パラリンピックの成功に向けた機運を醸成していくことにおいて大きな役割を果たすことができます。

2 東京 2020 文化オリンピックのコンセプト

- 基本的な考え方を踏まえて設定した、文化オリンピックに関する以下の4つのレガシーコンセプトの下、様々な主体における多様な取組によって東京 2020 文化オリンピックを全国で展開しました。
 - コンセプト①：日本文化の再認識と継承・発展
 - コンセプト②：次世代育成と新たな文化芸術の創造
 - コンセプト③：日本文化の世界への発信と国際交流
 - コンセプト④：全国展開によるあらゆる人の参加・交流と地域の活性化

3 東京 2020 参画プログラム

- 文化オリンピックでは、東京 2020 参画プログラムの枠組を活用し、全国各地での展開を図りました。
- 東京 2020 参画プログラムは、2020 年に向けてオールジャパンで盛り上げていくため、全国で大会に関連する多くの企画・イベントを行い、一人でも多くの方に東京 2020 大会に参画していただくとともに、東京 2020 大会をきっかけにした成果を未来へつなげるためのプログラムです。

＜東京 2020 参画プログラムの枠組み＞

国・東京都・大会パートナーだけではなく、広く多くの非営利団体の皆さまもプログラムに参加できる枠組としました。また東京 2020 大会は、スポーツ大会としてだけではなく、大会以降も様々な分野でポジティブなレガシーを残すため、以下の 8 つの分野を対象としました。



4 各団体における取組

- 世界規模での新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、各団体が 2020 年に向けて準備していた多くのプログラムが延期や中止を余儀なくされました。このような状況にあっても、文化芸術に携わる全ての人々が試練を克服すべく、芸術活動の再開、継続に向け、新たな創造を探求しました。

(1) 東京 2020 組織委員会による取組

- 文化オリンピックの全国各地での展開を目指して、キックオフや 1000 日前など節目となる機会に文化オリンピックのムーブメントを喚起する事業を実施しました。
- 世界の注目が日本・東京に集まる 2021 年 4 月から 9 月までにかけて、あらゆる境界を超えた連帯の象徴となるよう、公式文化プログラムとして、東京 2020 NIPPON フェスティバルを実施しました。

1) キックオフプログラム「幕開き日本橋 〜東京 2020 文化オリンピックキックオフ〜」

- 東京 2020 大会の開催に向け、2016 年 10 月、4 年間にわたる「東京 2020 文化オリンピック」のキックオフプログラムとして、東京都、アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)、三井不動産株式会社と共催し、江戸の文化の発信地であり、五街道の起点にもなった日本橋で「幕開き日本橋-東京 2020 文化オリンピックキックオフ-」を開催しました。
- セレモニーでは、東京 2020 文化オリンピックのキックオフが宣言され、特設ステージではキックオフを記念して伝統と革新をテーマにしたパフォーマンスが行われました。
- 会場に集まった来場者も 4 年後から始まる東京 2020 大会に向けて実施される文化オリンピックに期待が高まるイベントとなりました。



2) 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 企画展「Museum of Together」

- 東京 2020 文化オリンピックの普及啓発を行うと共に、アートを通じて多種多様な人々が参加・交流することを目指して、2017 年 10 月に、公益財団法人日本財団と共同で障がい者と共に楽しむアート展を実施しました。

3) 「東京 2020 参画プログラム 文化オリンピックナイト」開催

- オリンピックの 1000 日前イベントとして、2017 年 11 月に東京駅前行幸通りにて文化オリンピックナイトを開催しました。
- 本イベントの第一部では、「日本文化をどのように発信していくか」などをテーマにトークセッションが繰り広げられ、その後第二部の「Tokyo 2020 ALL JAPAN CONCERT」では、ライトアップされた東京駅をバックに様々なアーティストが歌やダンスを披露しました。
- 平和の祭典を待ち望む歌声が東京の夜空に響くと同時に、東京 2020 大会直前から実施される東京 2020 NIPPON フェスティバルに向け、オールジャパンで「日本の魅力」を世界に発信し、文化オリンピックを盛り上げるための一夜限りの特別なイベントとなりました。



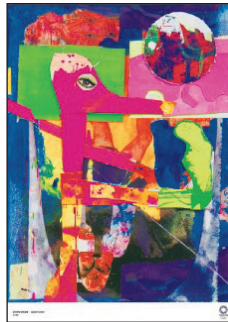
4) 東京2020公式アートポスター

- 20世紀初頭から、各大会の組織委員会は、オリンピックというスポーツ・文化イベントへの認知と理解を促進するために、ポスターを制作してきました。また、オリンピックのポスターは、各大会の特色を世界に伝える役割も果たしています。
- 東京2020大会においては、絵画、グラフィックデザイン、写真のほか、日本が世界に誇る文化である漫画や書など広範なジャンルのアーティストが、オリンピックまたはパラリンピックをテーマに合計20作品の公式アートポスターを新たに制作しました。

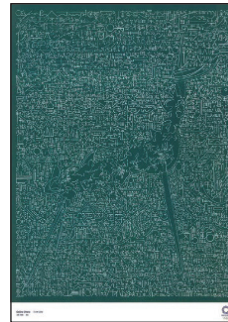
○ オリンピックをテーマとする作品



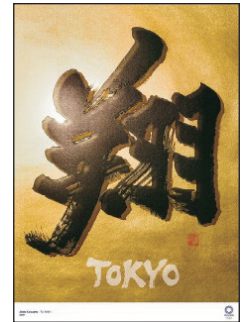
浦沢 直樹 Naoki Urasawa
あなたの出番です。
Now it's your turn!



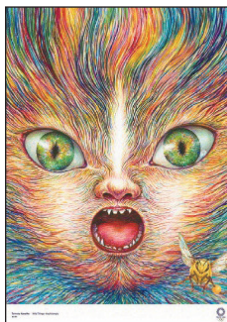
大竹 伸朗 Shinro Ohtake
スペース・キッカー
Space Kicker



大原 大次郎 Daijiro Ohara
動線
flow line



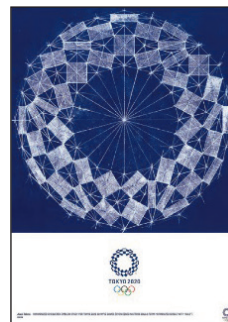
金澤 翔子 Shoko Kanazawa
翔
FLY HIGH!



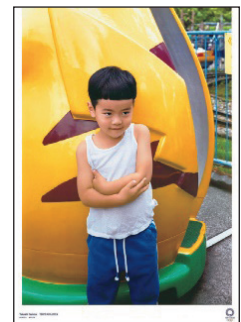
鴻池 朋子 Tomoko Konoike
Wild Things - Hachilympic



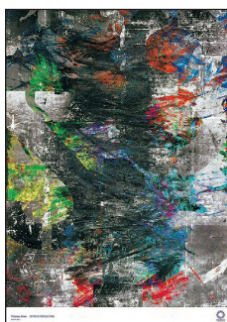
佐藤 卓 Taku Satoh
五輪の雲
OLYMPIC CLOUD



野老 朝雄 Asao Tokolo
HARMONIZED CHEQUERED EMBLEM
STUDY FOR TOKYO 2020 OLYMPIC
GAMES [EVEN EDGED MATTERS
COULD FORM HARMONIZED CIRCLE
WITH "RULE"]



ホンマタカシ Takashi Homma
東京の子供
TOKYO CHILDREN



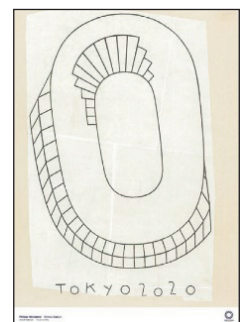
テセウス・チャン
Theseus Chan
EXTREME REVELATIONS



クリス・オフィリ
Chris Ofili
The Games People Play

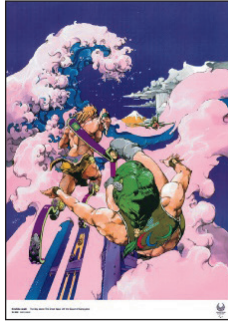


ヴィヴィアン・サッセン
Viviane Sassen
Ludus

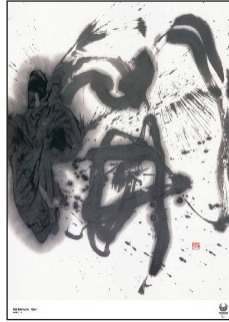


フィリップ・ワイズベッカー
Philippe Weisbecker
オリンピックスタジアム
Olympic Stadium

○ パラリンピックをテーマとする作品



荒木 飛呂彦 Hirohiko Araki
神奈川沖浪裏上空
The Sky above The Great
Wave off the Coast of
Kanagawa



柿沼 康二 Koji Kakinuma
開
Open



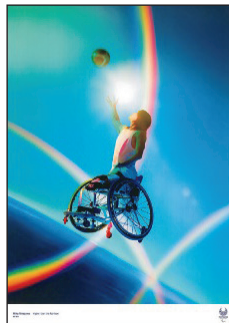
GOO CHOKI PAR
パラリンピアン
PARALYMPIAN



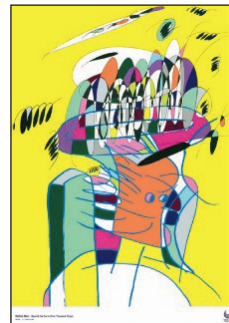
新木 友行 Tomoyuki Shinki
オフェンス No.7
Offense No.7



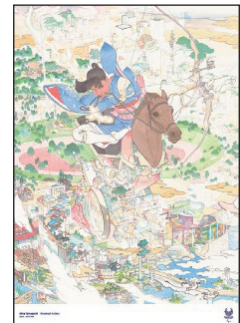
野老 朝雄 Asao Tokolo
HARMONIZED CHEQUERED
EMBLEM STUDY FOR TOKYO
2020 PARALYMPIC GAMES
[EVEN EDGED MATTERS
COULD FORM HARMONIZED
CIRCLE WITH "RULE"]



蜷川 実花 Mika Ninagawa
Higher than the Rainbow

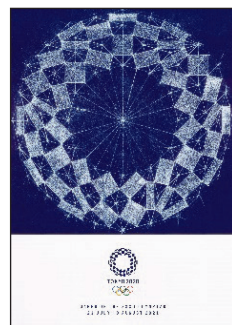


森 千裕 Chihiro Mori
カーブの向う(五千輪)
Beyond the Curve (Five
Thousand Rings)

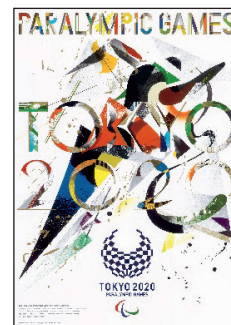


山口 晃 Akira Yamaguchi
馬からやろ射る
Horseback Archery

- また、東京2020公式アートポスターの中から大会を象徴する「アイコンックポスター」はIOC及びIPC会長により選定され、オリンピックは野老朝雄の作品、パラリンピックはGOO CHOKI PARの作品となりました。



○ 東京2020オリンピック
アイコンックポスター



○ 東京2020パラリンピック
アイコンックポスター

- アイコンックポスターはIOC及びIPCが将来にわたって作品の権利を保有し、展示やライセンス商品展開等の活用を推進していく大会のレガシーの一つです。オリンピックと比較してパラリンピックの公式ポスターの歴史はまだ浅く、アイコンックポスターを選定したのは東京2020大会が初の試みとなりました。

(2) 国による主な取組

- 国は、2020年以降を見据え、日本の強みである地域性豊かで多様性に富んだ文化を活かし、成熟社会にふさわしい次世代に誇れるレガシーの創出に資する文化プログラムを「beyond2020プログラム」として認証する取組を日本全国へ展開しました。
- 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として、総合テーマ「日本人と自然」の下に、縄文時代から現代まで続く「日本の美」を国内外へ発信し、次世代に伝えることで、更なる未来の創生を目指して、「日本博」を2020年から開始しました。日本博のプログラムは、文化庁、日本芸術文化振興会、関係府省庁、全国の文化施設、地方自治体、民間企業・団体等の総力を結集し、日本の美を体感する美術展・舞台芸術公演、芸術祭などを、年間を通じ、全国各地で展開しています。

1) 「beyond2020プログラム」

- 「beyond2020プログラム」では、日本文化の魅力を発信する事業・活動であって、「多様性(バリアフリー)」又は「国際性(多言語化等)」に配慮した取組を全国69の認証組織が認証し、2021年8月末時点で認証事業は累計19,000件以上となっています。



六本木アートナイト2019
Kurt Perschke RedBall Project 撮影 Brit Worgan



Discover KABUKI

2) 「ジャポニスム2018」、「Japan 2019」

- 「『日本の美』総合プロジェクト懇談会」で芽吹いた世界に誇れるソフトパワーたる日本の文化芸術の魅力を世界に広めていく日本博構想に基づき、「ジャポニスム2018」、「Japan 2019」を実施しました。
- 「ジャポニスム2018」は、2018年7月から2019年2月までパリを中心としたフランス各地にて、国際交流基金を事務局として実施され、日本文化の原点とも言うべき縄文文化から琳派、伊藤若冲、歌舞伎、メディア・アート、アニメ、マンガ、映画、現代演劇、食や祭りに至る、300件以上の企画を通じて日本の芸術と文化の多様性に富んだ魅力を紹介し、総計350万人強の来場者を集めました。
- 米国では、国際交流基金が「Japan 2019」を2019年3月から12月までニューヨークとワシントンD.C.を中心に開催し、『源氏物語』をテーマとした展覧会、日本美術に見る動物表現を取り上げた展覧会、ギリシャ悲劇をもとにした日本の現代演劇、現代美術作家の演出による人形浄瑠璃公演等を、米国の美術館や劇場と連携しつつ実施し、その質の高さが、米国はもとより、世界から評価されました。最終的に総計129万人が来場し、米国における我が国の芸術や文化に関する理解・関心の裾野拡大にも貢献しました。



ジャポニスム 2018 公式企画
「チームラボ：境界のない世界」展 © teamLab



Japan 2019 公式企画『源氏物語』展 in New York
～紫式部、千年のときめき～
土佐光起筆《紫式部》(部分) 石山寺蔵 Photo: Kanai Morio

3) 日本博



○ 事業目的

- 「日本博」は、総合テーマ「日本人と自然」の下、日本全国で日本の文化芸術に流れる「日本の美」を国内外へ発信し、次世代に伝えることで更なる未来の創生を目指す文化芸術の祭典です。開催時期は、2021年を中心としつつ、その前後の期間も含めて幅広く展開します。「日本博」では、各地域が誇る様々な文化観光資源を年間通じて体系的に展開するとともに、国内外への戦略的プロモーションを推進し、文化による「国家ブランディング」の強化、「国内観光需要」・「インバウンド需要」の喚起を図ります。
- また、新型コロナウイルス感染症の影響の中、会場にお越しいただけない方々にもデジタルコンテンツ(動画、VR、画像等)を仮想空間でお楽しみいただけるよう、2021年8月に「バーチャル日本博」をオンライン上に設置しました。今後はコンテンツの拡充、オンラインツアー開催や舞台公演配信を順次行う予定です。
- 開催地での「リアル体験」とデジタルコンテンツ等を通じた「バーチャル体験」を通じて、「日本の美」を国内外へ発信し、次世代に伝えることで更なる未来の創成を目指します。

○ 日本博実施プログラム(主な取組)

<日本博皇居外苑特別公演～祈りのかたち～>

(開催日：2021年3月12日～14日)

(会場：皇居外苑 皇居前広場)

※3月13日は雨天荒天により中止

皇居二重橋及び伏見櫓を背景とした皇居外苑
特設会場で初めて伝統芸能を披露しました。



「翁」©日本芸術文化振興会

<隈研吾展 新しい公共性をつくるためのネコの5原則>

(会期: ① 2020年11月3日～2021年1月3日

② 2021年1月22日～3月28日

③ 2021年6月18日～9月26日)

(会場: ① 高知県立美術館 ② 長崎県美術館

③ 東京国立近代美術館)

国立競技場の設計に参画するなど、現代の日本を代表する建築家、隈研吾の建物を紹介しました。



展示風景 © Kioku Keizo

<日本博を契機とした障害者の文化芸術フェスティバル>

(会期: 2020年2月～2022年3月)

(主な会場: 北海道、岩手県、埼玉県、新潟県、滋賀県、鳥取県、長崎県)

日本博の総合テーマ「日本人と自然」を障害者の視点を通じて発信しました。



石見神楽(いわみ福祉会芸能クラブ)

4)「文化のWA(和・環・輪)プロジェクト～知り合うアジア～」

- ASEAN諸国を始めとするアジア諸国・地域を対象に、「日本語教育支援」「芸術文化の双方向の交流」を核とする事業を、国際交流基金アジアセンターが2014年度より実施しています。
- 各国・地域の高校等に日本語教育を支援する「日本語パートナーズ」を派遣し、外国人日本語教師の授業のサポート等を行った結果、生徒の日本語力や学習意欲の向上、日本語を学ぶ生徒数の増加といった成果だけでなく、日本と現地の学校との交流機会の創出にも繋がり、日本語教育を継続的に行っていく上で好ましい環境を作ることができました。
- 双方向性と協働性を重視し、美術、映画・映像、舞台芸術、スポーツ、市民交流、知的交流など、さまざまな分野でアジアの人々との交流活動を実施した結果、各分野の専門家のネットワークや市民団体の連携が強化され、日本とアジア諸国・地域が双方の文化への理解を深め、協働して文化交流活動を行っていく機運の醸成や環境作りに貢献しています。



アジア各地の高校等で日本語授業のアシスタントや日本文化の紹介を行う日本語パートナーズ 写真提供: 国際交流基金



U18東南アジア選抜チーム「ASIAN ELEVEN」 vs. U18東北選抜 サッカー国際親善試合「JapaFunCup」

©JFA

5)「ジャパン×ナントプロジェクト」

- 文化庁が主催する障がい者の文化芸術国際交流事業、「ジャパン×ナントプロジェクト」が、東京2020組織委員会の公認文化オリンピックアードとして2017年8月より開催されました。
- 本事業は、「フランス国立現代芸術センター“リュウ・ユニック”」、「ナント国際会議センター“シテ・デ・コングレ”」の両館ディレクターが評価した、アール・ブリュット作品や障がい者による優れた舞台芸術(伝統芸能[和太鼓、神楽]、ダンス、音楽、演劇)を発表しました。
- 会期中は障がいのある方の造形活動や日々の暮らしを収めたドキュメンタリー映画が上映されるなど、多種多様な文化を海外に発信する先進的な取組が図られ、日本文化の新たな側面を示すとともに、文化芸術立国として世界に存在感を示す絶好の機会となりました。



6)「全国文化プログラムプレスセンター・プロジェクト」

- 東京2020文化オリンピックアードをはじめ、全国各地でコミュニティの文化・歴史をテーマにした祭りやイベント、文化財等を対象に、地元の中学生・高校生らがジャーナリストとして取材。地域文化を発掘・再発見しながら手作りの新聞、ルポ、動画ニュースを作成することで地域文化の魅力を発信しました。



2018年7月2日(月) 東京2020 NIPPON フェスティバル取材会の様子

(3) 東京都による主な取組

- 東京都は、オリンピック・パラリンピックを契機に“芸術文化都市 東京”の魅力を世界に発信しようと、2016年から多彩な文化プログラムを展開してきました。
- 2017年からは、東京都の文化プログラムを「Tokyo Tokyo FESTIVAL」と銘打ち、芸術文化の可能性にチャレンジする「文化の祭典」ならではのプログラムを始め、都立の美術館・博物館・ホールで行われる展覧会や公演、まちを舞台としたアートイベント、国内外の団体や企業などの文化活動支援、都内区市町村と連携して進める事業などを数多く実施しました。

1) Tokyo Tokyo FESTIVAL



○ 事業目的

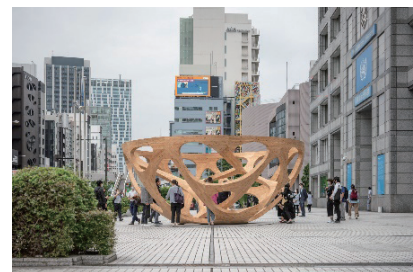
- 東京都は、芸術文化都市東京の魅力を伝えるため、オリンピック・パラリンピック開催都市として多彩な文化プログラムをTokyo Tokyo FESTIVALと銘打って展開しました。伝統と現代、そして世界中の文化が交差する東京で多様なジャンルのプログラムをオンラインも交えて実施し、東京の芸術文化の魅力を感じていただく機会となりました。
- なかでも、Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル13は公募により国内外から応募のあった2,436件から選ばれた13のプログラムです。2019年から一部のプログラムを実施、2020年は新型コロナウイルスの影響で事業の延期を余儀なくされましたが、2021年は感染対策を講じながら9月5日まで様々なジャンルを横断し、独創性に富み、未来を切り開くチャレンジ精神溢れるプログラムを都内各所で展開しました。

○ Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル13実施プログラム(主な取組)

<パビリオン・トウキョウ2021>

2021年夏の東京に現れた9つのパビリオン

新国立競技場を中心とする複数の場所に、世界各地で活躍する日本人建築家やアーティストが設計したパビリオンを設置し、自由に新しい都市のランドスケープを提案した世界初の試みです。鑑賞者は、地図を片手に宝探しのように、あるいは散歩のかたわらに、クリエイターたちによる未来への願いが込められたパビリオンを巡ることができ、東京の都市としての魅力と日本建築の魅力を実感する絶好の機会となりました。



Global Bowl 設計：平田晃久
撮影：ToLoLo studio

＜まさゆめ＞

巨大な顔が空に浮かぶ圧倒的な風景が出現

現代美術チーム・目 [mé]による東京を舞台にした作品で、世界中からひろく「顔」を募集し、選ばれた「実在する一人の顔」を2021年の東京の空に浮かべました。巨大な顔が、突如として東京の空に浮かんだその謎めいた圧倒的な景色は、多くの人々にインパクトを与えました。

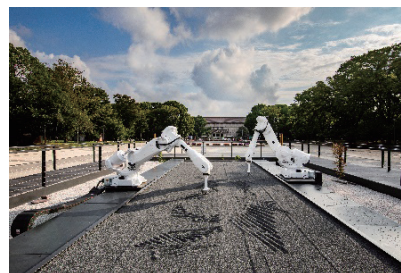


《まさゆめ》目[mé], 2019-21,
撮影：金田幸三

＜ザ・コンスタント・ガーデナーズ＞

ロボット工学・日本の庭園文化・スポーツが融合

産業用ロボットアームが、様々なスポーツ競技におけるアスリートの動作を取り込んで、「ガーデナー（庭師）」として巨大な砂利のキャンバスに庭園景観を砂紋で表現する、ロボット工学と日本の庭園文化、そしてスポーツを融合させたインスタレーションです。大会期間中、約150パターンもの独創的な作品を作り上げ、訪れた人々は、伝統と未来をつなぐこの作品が生み出す様々な景観を楽しみました。



撮影：Jimmy Cohrssen Courtesy of Jason Bruges Studio

○ 東京キャラバン

- 東京都が主催した「東京キャラバン」では、劇作家・演出家・役者の野田秀樹総監修のもと、言語や国境、表現ジャンルを超えた多種多様なアーティストの「文化混流」が実現しました。
- 2015年の東京・駒沢に始まり、リオデジャネイロ、東北（仙台・相馬）、六本木、京都（二条城、亀岡）、八王子、熊本、豊田、高知、秋田、いわき、埼玉、富山、岡山、北海道でそれぞれのジャンルを超えたパフォーマンスを展開し、「東京キャラバン」でしか見ることのできない新しい表現を創出し続け、文化ムーブメントを全国で巻き起こしました。
- 国や地域を超えた交流を継続的に図ってきたことで、東京2020大会以降の文化的な基盤を創生しました。



東京キャラバンin京都・二条城（2017年）撮影：井上嘉和



東京キャラバンin北海道（2019/2020）撮影：篠山紀信

(4) 地方自治体等による主な取組

1) ONE –Our New Episode – Presented by Japan Airlines In KANAGAWA 2019

- 「共生社会の実現に向けて」をテーマとした東京2020 NIPPONフェスティバルのプログラムに、「ともに生きる社会かながわ」の実現に向けた取組を進める神奈川県が参画し、キックオフイベントとしてONE–Our New Episode–Presented by Japan Airlines in KANAGAWA 2019を実施しました。
- ダンスやライブ演奏、『共生社会に向けて』をテーマにしたパネルディスカッションや、参加者が実際に「みえない」「きこえない」「はなせない」状態となり、普段とは異なるコミュニケーションにチャレンジする「未来言語ワークショップ」など様々なコンテンツに多くの方が参加し、イベント参加者に障がいのある方々との共生を考えるきっかけを提供するとともに、東京2020大会の文化オリンピックの期待感を高めました。



2) 東アジア文化都市 2019 豊島

- 「東アジア文化都市2019豊島」では、「舞台芸術」「マンガ・アニメ」「祭事・芸能」を中心にオールとして事業展開しました。また、中国・西安市、韓国・仁川広域市とともに様々な文化芸術交流イベントを実施し、相互理解と絆を深めることができました。
- 「マンガ・アニメの聖地」「国際アート・カルチャー都市」としての豊島区の魅力を国内外に向けて大きく発信しました。



3) さいたま国際芸術祭 2020

- さいたま国際芸術祭 2020 は、プロのアーティストによる最先端の作品を紹介するだけでなく、それらと市内各地において古くから培われてきた文化や様々な市民による文化芸術活動が出会う場をつくり、それらが融合・触発しあうきっかけを創出することを目的に2020年10月から11月にかけて開催されました。
- 日本が誇る「盆栽・人形・鉄道・漫画」文化について、本芸術祭ならではの現代アートの切り口で解釈し国内外へ発信するとともに、コロナ禍においても、外国人のアーティストの作品を発表し、アートを通じての国際交流に貢献しました。



フランク・ブラジグランド、《日常の修復 - 旧大宮区役所》
撮影：丸尾隆一



アウトリーチプログラム Dama Dam Tal + 埼玉栄高校ダンス部
撮影：shunya Asami

5 成果・レガシー

(1) 主な実績・成果

- 文化オリンピアードは、東京2020参画プログラムの枠組を活用して全ての都道府県で展開し、多くの人々が文化の祭典に参加しました。
 - 文化オリンピアードの会期中に実施された、アクション件数は5,657件、参加者数は延べ37,129,108人となりました。
 - イベントの主催者のうち93.8%は、2020年以降も、同様の事業を実施したいと考えており、東京大会のレガシーが全国各地で継承されます。
 - また、イベントの56.5%にボランティアが積極的に参加しました。ボランティア文化の醸成にも貢献しました。
 - 障がい者や外国人などの多様な人々が参加・活躍したイベントが86.1%ありました。全国的にソフト・ハードのアクセシビリティの整備、インバウンドの拡大により国際性が進んでいることの証左となる結果でした。
- コロナ禍により、公演や展覧会が中止になるなど文化・芸術への影響は深刻でしたが、オンラインを活かした表現や鑑賞方法などの新たな価値が創造されました。
 - 2020年に文化・芸術を直接鑑賞した人の割合が41.8%。前年度の67.3%から大幅に低下
 - 2020年にインターネット有料配信等により文化芸術を鑑賞したものは、全体では27.7%、20～29歳では48.4%を占めました。

※ 2021年3月 文化庁「文化に関する世論調査報告書」

(2) レガシー

- 東京 2020 大会においては、文化オリンピックを契機に、コロナ禍を乗り越えて、様々な文化プログラムが展開された結果、幅広い層の文化活動への参画により、文化で全国を盛り上げる機運が上昇しました。
- 会場所在都市以外でも全国津々浦々で文化イベントが開催され、人々の交流を通じて、新たな表現や文化が創出されたと同時に、日本文化の再認識や世界への発信と繋げることができ、その継続、発展が期待されます。
- 国、東京都、東京 2020 組織委員会が一体となり取り組んだ結果、新しい事業はもちろん、既存事業を発展させたプログラムが様々な場所で創造され、文化芸術団体や自治体等の新たなパートナーシップの連携が全国各地で見られ、今後も新たな取組が見込まれます。
- 各地域が誇る歴史、文化財、伝統芸能、祭り等の文化資源を様々な枠組の中で体系的に展開することにより、日本文化を再認識する機会と場を提供することができました。今後は、このことを契機に、日本文化が次世代に継承され、発展に繋がっていくことが期待されます。
- また、文化オリンピックで創出されたプログラムの半数以上が 2021 年以降も継続予定であり、レガシーとして各地域の文化資源が次世代へも継承されることが見込まれます。

Ⅲ 東京 2020 NIPPON フェスティバル

Ⅱで述べてきました東京2020組織委員会の取組の集大成として、東京2020大会公式文化プログラムである東京2020 NIPPON フェスティバルを実施しました。

1 「文化の祭典」としての東京2020 NIPPON フェスティバル

（1）目的

- ① スポーツと共に、あらゆる境界を超えた連帯の象徴となり、平和な社会の実現に貢献すること
- ② 日本の誇る文化・芸術を国内外に強く発信すること
- ③ 共生社会の実現を目指して、多様な人々の参加や交流を生み出すこと
- ④ 文化・芸術活動を通して、多くの人々が東京2020大会へ参加できる機会をつくり、大会に向け期待感を高めること

（2）事業体系

① 主催プログラムについて

主催事業として、東京2020 NIPPON フェスティバルの中核を成す3つの文化プログラムを実施しました。これらのプログラムは、東京2020大会のビジョンやフェスティバルコンセプトを体现することで、フェスティバル全体を牽引する役割を担っています。大会と連動しながら、新しい文化プログラムの形を示すことで、大会への期待感とオリンピックムーブメントの醸成を図るとともに、大会後の未来にレガシーを遺すことを目的としていました。

② 共催プログラムについて

東京2020 NIPPON フェスティバルでは、東京2020組織委員会が主催するプログラムに加え、全国の自治体や文化芸術団体等と連携して実施する「共催プログラム」を行いました。共催プログラムは、東京2020大会を契機に実施される日本を代表する特別な文化プログラムを、大会公式文化プログラムである東京2020 NIPPON フェスティバルとして実施することで、日本が誇る文化・芸術を国内外に強く発信することを目指しました。

(3) コンセプト

東京 2020 NIPPON フェスティバル コンセプト

東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けて、
全国でくり広げられる文化の祭典、それが東京 2020 NIPPON フェスティバルです。

日本にあらゆる国の人が集う本大会に先駆けて、
様々な人と文化が交流する場となるはずです。

地方と都市。日本と世界。

あらゆる境界を超え、ひとつになるその時。

きっと、かつてない文化が生まれるでしょう。

きっと、多様性の力と素晴らしさを実感するでしょう。

きっと、新たな文化と感動が未来につながってゆくでしょう。

その主役は、私たちひとりひとり。

そして舞台は、この国のあらゆるまちとまち。

日本各地の熱気と多様性の融合から、すべては始まります。

東京 2020 NIPPON フェスティバル。それは、
この国の新たな可能性を開くフェスティバルです。

(4) ロゴマーク



- 東京大会エンブレムの制作者でもある野老 朝雄が制作しました。
- フェスティバルの象徴となって、全国へ広がっていくイメージが表現されています。
- 大会エンブレムと同じ3種類の四角形を、同じ数組み合わせたマークが描くのは「Harmonized Checker = 調和した市松」です。
- 東京 2020 NIPPON フェスティバルが多様性の調和により可能性や希望が広がり、イノベーティブでアクティブな新しい輝きを起こしていくことをデザインに込めています。

(5) キャッチフレーズ

Blooming of Culture

文化は、出会いから花開く。

様々な人と人の出会いから生み出される“新たな文化と感動”を、フェスティバルらしい華やかな言葉で祝祭とともに表現しました。四季を楽しむ日本ならではのキャッチフレーズにより、日本中でフェスティバルとともに文化が花開くという願いを込めました。

2 東京2020大会延期と東京2020 NIPPONフェスティバルの2021年実施に至る経過

- 2020年3月24日の東京2020大会の開催延期決定に伴い、同年4月20日に東京2020 NIPPONフェスティバルの2020年中の開催を中止することを決定しました。以降、東京大会における文化プログラム実施の意義を改めて考えるとともに、新型コロナウイルス対策及び「大会延期に伴う大会の位置づけ、原則、ロードマップ」（2020年6月10日公表）も踏まえ、東京2020 NIPPONフェスティバルの実施可否を様々な視点からゼロベース（廃止も含む）で検討しました。
- 文化プログラム実施の意義については、2021年2月3日の文化・教育委員会に意見照会し、実施方針を確認するとともに、新型コロナウイルス対策及び大会の簡素化等を踏まえた見直しを行い、2021年の実施について決定し、2021年3月9日に発表しました。

<2021年における東京2020 NIPPONフェスティバル実施の意義>

- オリンピック憲章におけるオリンピズムの根本原則に立ち返ると、「オリンピズムとはスポーツを文化、教育と融合させ、生き方の創造を探究することで、平和な社会の推進を目指すもの」であり、これが、オリンピック・パラリンピックがスポーツの祭典であると同時に、平和の祭典と言われるゆえんです。
- 一方、文化芸術活動は、人々に感動を与えるものであり、その感動はあらゆる境界を超えます。新型コロナウイルスが生じさせた社会の分断に対しては、文化芸術活動が境界を超えた連帯の象徴となりえます。
- 文化プログラムは、「平和な社会の推進」「人類の連帯の象徴」として、オリンピック・パラリンピックに必要なものであり、相互理解を進めグローバルな連帯や協力を促していく力があります。
- 東京2020組織委員会は、リオ2016大会以降、日本全国で展開してきた文化プログラムの集大成として、新型コロナウイルスによる社会の分断を乗り越えて、人々を感動でつなぎ、連帯する象徴的な取組として、世界の注目が日本・東京に集まる2021年4月から9月にかけて、東京2020 NIPPONフェスティバルを開催します。

3 主催プログラム

くしあわせはこぶ旅～モッコが復興を歩む東北からTOKYOへ～ Presented by ENEOS

くしあわせはこぶ旅 モッコが復興を歩む東北からTOKYOへ

Rediscover Tohoku to TOKYO

Presented by ENEOS

(1) 事業目的

①「復興オリンピック・パラリンピック」を象徴する事業の一つとして、東北の地元の人々とともに大会公式の文化プログラムを創り上げること、②東日本大震災からの復興を歩む「今」と、その力の源となった伝統文化をはじめとする多様な東北文化を、国内外に発信し、東北に新たなレガシーを残すこと、そして、③新型コロナウイルス感染症に苦しむ人、戦う人々へ勇気と希望のメッセージを届けることを目的としました。

(2) 事業概要

「東北復興」をテーマに、2021年5月から7月にかけて、岩手県、宮城県、福島県をはじめとした地元自治体等と連携し、東北各地と東京を舞台としたプログラムを実施しました。この企画のために作られた約20人の力で動く高さ10メートルを超える巨大人形「モッコ」がTOKYOへの旅の途中、東北各地を巡って、人々からのメッセージを預かり、東北に根づく文化や人々の思いを繋ぐロードストーリーを背景に新しい形の文化事業を展開しました。

(3) 企画制作体制

- クリエイティブディレクター、総合演出：箭内 道彦(東京藝術大学 美術学部デザイン科教授)
- メディカルディレクター(新型コロナウイルス感染症対策)：
忽那 賢志(大阪大学 大学院医学系研究科 教授)
- 人形デザイン設計 人形製作操演 総指揮：沢 則行(人形劇師、人形作家)
- 命名「モッコ」：宮藤 官九郎(脚本家、監督、俳優)
- ベースデザイン 世界観：荒井 良二(絵本作家、イラストレーター)
- 「モッコの物語」作者：又吉 直樹(芸人、小説家)
- 「モッコの物語」朗読、「とうほくの幸」歌唱：石川 さゆり(歌手)
- 「とうほくの幸」歌唱：Tokyo Tanaka (MAN WITH A MISSION) (Vocal)
- 「とうほくの幸」ラップ：Mummy-D(ライムスター)(ラッパー)
- 「とうほくの幸」編曲&プロデュース：亀田 誠治(音楽プロデューサー・ベーシスト)
- 協力：東京藝術大学(演奏・録音)
- 人形制作メンバー：大池 ひとみ(アーティスト、彫刻家)、嶋崎 陽(アーティスト)

※括弧内の肩書は事業実施当時

(4) 実施体制

共催：岩手県、宮城県、福島県、環境省

協力：岩手県陸前高田市、宮城県岩沼市、福島県南相馬市、長野県下伊那郡高森町

後援：復興庁

(5) プロジェクトストーリー

2011年の東日本大震災から10年後、2021年のTOKYOに東北から向かう「モッコ」。

ワークショップを通し、東北の子どもたちのイマジネーションとともに育まれたモッコ。

The Creation of TOHOKU. その大きな身長は、約10メートル。

陸前高田(岩手)、岩沼(宮城)、南相馬(福島)と、太平洋岸を進む旅の途中、モッコは様々な東北の文化と人を感じます。

TOKYOと東北を繋ぎ、そして、人と人の思いを、もう一度繋ぎ直しながら。

現在の東北を知り、やがて訪ねてみたいと思う人が増えるきっかけにもなりながら。

思い出を携えて、モッコはさらに歩き続けます。みんなを笑顔にするために。

たくさんのしあわせを運ぶために。バラバラな思いを、ひとつにするために。

<モッコの物語>

東北の地で生まれ、多くの人と出会いながら、旅を続けるモッコの姿が描かれている物語。

(新型コロナウイルス感染症の影響を受け2021年に物語の一部を加筆)

東北の子ども達とのデザインワークショップではこの物語の読み聞かせから始まり、子ども達それぞれが物語に出てくる「モッコの姿」をイメージしてデザインに取り組みました。東北3会場でのイベント時は、石川さゆりさんによる「モッコの物語」の朗読の音源に合わせてモッコがメインショーを披露し、東京会場では実際に石川さゆりさんによる朗読を実施しました。

『モッコの物語』 又吉 直樹 作

- おおきなおとが きこえています
はなびのような、カミナリのような、こうじのような、おおきなおと
- まどをあけてみると まっしろいゆきのせかいに
モッコのあしおとが ひびいているのです
- とてもおおきなモッコが しろいいきをはきながら
ゆきのまちを あるいていきます
- モッコのあしおとにあわせて
ダンサーたちが ふしぎなおどりをおどっています
- モッコもまねしておどりますが
うごきが きみょうでみんながわらっています
- モッコのあしおとにあわせて
バンドがたのしそうにえんそうしています
- モッコもおんがくにあわせて
うたいますが かなりおんちでこまります
- モッコが川をとびこえると
おおきなあしおとといっしょに つよいかぜがふきます
- モッコのあしもとに「しんくう」ができて
くろいあなから いろいろなものがみえました
- ほし、つき、おはな、おもち、らくだ、らくごか、くつはくときにつかうぼう、
ラッパー、おおものよこにいるつうやくさん、ポッケにずっとあったふるいあめ、
あなたにはなにが見えますか
- 「べんがろん ぐいっじいな ぞぼいぞぼい！」
モッコのおなかのおとです
- 「ずどずど ねでででえー！」
モッコのあくびです
- モッコは しあわせをはこぶためにあるきつづけます
モッコは にんげんのがことが だいすきです
- モッコが つりびとがさかなをつれたか
いわかげからのぞいています
- モッコがこどもたちとのサッカーでキーパーをしています
- モッコが献血しています
- モッコがコンビニのまえでヤンキーたちと
たむろしています

- モッコがキャッチセールスにつかまった
おんなのこをたすけようとしています
- おもいにもつをせおった たいへんそうなおばあさん
モッコは おばあさんごと てのひらにのせました
- だけど おばあさんは にもつをせおったままだから
おもさはあまり かわりません
- モッコは おっちょこちよいです
だけど なぜか おばあさんは えがおです
- モッコはいねかりをてつだいます
だけど しゅうかくしたより たくさんたべます
- 「ベベべんベベベベ すぐすぐべろーん！」
モッコのあくびです
- 「みゃんが みゃんが」
モッコのねごとです
- いまにもたおれそうなおおきな木があって みんなが意見をいいます
「きったほうがいい」「ささえよう」「こんなもんはほっとけ」「どこかにうりとばそう」
意見はバラバラですが なんとかしたいというきもちはおなじです
- モッコはたおれそうなおおきな木をひっこぬき そらになげました
おおきな木は宇宙までとんで ながれぼしになりました
そのながれぼしに みんながねがいごとをいいます
- 「イルカとおよぎたい」「すべてのまんがをよみたい」「あくびのかおをみられたくない」
「かぞくにあいたい」「あらそいをなくしたい」「みんながわらえるせかいがみたい」
「ウインクがうまくなりたい」
「れいぞうこのあまりものでなにかおいしいものをつくりたい」
ねがいはバラバラですが あしたをよくしたいというきもちはおなじです
- こどもたちが モッコとなかよくなりました
モッコはようしゃなくすもうでぜんいんたおします
- つぎのまちまであるくあいだ
モッコがこどもたちのはなしをきいてくれます
- うちゅうのはなし、はつこいのはなし、おかあさんのはなし、
えんぴつのうしろについている けしゴムのはなし
- わかれをおしんだ こどもたちがいいました
「ぼくたちのまちでいっしょにくらそ」
- モッコはあるきつづけます
「ちがーけしぎがみっちいから いろんなえがおがみっちいから あるきつづけんだ
でぎっこどしがしねえし すきなようにやるしかねえべ」
そんなことをかんがえながら

- でも モッコは ひやくねんくらいとまっていることもあります
そのへんはあいまいなのです
- こどもたちが なきました
「はなれたくねえ」となきました
- 「みんなもモッコのおもいでは えいえんにみんなもモッコだけのもんだ
とおぐはなっちゃどしても みんながモッコをおもいだすとき
モッコは みんなだけのもんだ」
モッコはやさしいこえで いいました
- 「なにいつてんだ？」というかおをしている男の子
そんなことより 「モッコって、はなせんだ」とおどろく女の子
とにかく、みんなとモッコは ともだちです
- あっ そうだ さけぼう
「うおお～！！！！」
大きなモッコがさけびます みんなのために
- わかれた恋人どうしがモッコをみます けんかしていたひとたちがモッコをみます
みんなにみられたモッコは おおきなめであしたをみえています
モッコはみんなをつないでゑるきます
- そのとき だれかがだれかをすきになり だれかがゆめをおいはじめ
だれかがじんせいをおえようとして だれかのいえにあらたないのちがうまれ
だれかがおおごえで わらいました
- モッコはあるきつづけます
ゆきがとけて はながさきはじめたまちを
モッコは あるきつづけます

終わり

(6) 巨大人形「モッコ」

- プログラムを統括する箭内道彦の下、宮藤官九郎が命名したモッコのデザインは、岩手・宮城・福島の子
どもたちとクリエイターたちによるワークショップで創りあげられました。
- まず、子どもたちが又吉直樹作の「モッコの物語」を聞き、その姿をイメージ。次に、子どもたちの身体よ
りも大きなダンボール板に、クレヨン、水彩絵の具、テープ、毛糸など、さまざまな素材を使って自由に「モッ
コ」を表現しました。「描く」「破る」「繋ぎあわせる」といった子どもたちの多彩な表現方法から、モッ
コが身にまとう衣装が生まれてきました。
- こうしてつくられた原案をもとに、荒井良二がベースデザインを作成。そして、沢則行はじめ多くのスタッ
フにより、長野県高森町で100名を超えるボランティアの方々の協力を得て、東北復興の思いを込めて制
作し、巨大人形モッコを完成させました。
- モッコは、「操り人形」から「つながり人形」へ。人と人とが力を合わせることで動き、そして人と人をつな
ぎ直す存在となり、国境や世代、ジェンダー、といったさまざまなボーダーを越えて、東北の旅でみんな
の思いやメッセージを集めながら、世界に発信していきました。

■ワークショップ

① 岩手県

開催日：2018年12月18日(火)

会 場：岩手大学教育学部附属特別支援学校

ファシリテーター：中村政人(東京藝術大学美術学部絵画科教授)

参加者：岩手県盛岡峰南支援学校の生徒(12名)

岩手県みたけ支援学校(高等部)の生徒(14名)

岩手大学教育学部附属特別支援学校の生徒(24名)

② 宮城県

開催日：2019年4月24日(水)

会 場：宮城県岩沼市立東児童館

ファシリテーター：大巻伸嗣(東京藝術大学美術学部彫刻科教授)

参加者：宮城県岩沼市立東児童館に通う地域の小学生(31名)

③ 福島県

開催日：2019年4月23日(火)

会 場：福島県南相馬市立原町第二小学校

ファシリテーター：大巻伸嗣(東京藝術大学美術学部彫刻科教授)

参加者：福島県南相馬市立原町第二小学校の児童(30名)



(7) 各会場の実施状況

- 2021年5月には、岩手県・宮城県・福島県、7月には東京を舞台に、文化プログラムをキャラバン展開しました。
- 各会場では、イベント開催前に、東日本大震災の犠牲者に対して来場者全員による黙祷が捧げられました。その後、オープニングセレモニー、モッコの芝居、各県の伝統芸能などの演目「東北クリエイションリレー」、最後に、亀田誠治の楽曲「とうほくの幸」に合わせて石川さゆりが「モッコの物語」を情感たっぷりに朗読し、モッコのパフォーマンスを披露しました。
- また、万全な新型コロナウイルス感染症対策のもとで開催するため、メディカルディレクター(新型コロナウイルス感染症対策)として忽那賢志教授を配置し、感染症対策を徹底しました。

【岩手会場】

- 日 時 : 2021 年 5 月 15 日 (土)
- 場 所 : 岩手県陸前高田市 高田松原津波復興祈念公園
- 来 場 者 : 約 600 人
- 出 席 者 : 橋本 聖子 東京 2020 組織委員会会長
達増 拓也 岩手県知事
戸羽 太 陸前高田市長
箭内 道彦 クリエイティブディレクター
沢 則行 人形デザイン設計 人形製作操演 総指揮
- 実施内容
 - 約 600 人の来場者を迎え、東北の伝統文化・芸能とともに、多くの驚きと感動を伝えました。
 - 性別、国籍を問わず集まった操演者と地元スタッフが力を合わせて 1 本ずつロープを引っ張って、大きなモッコを感情豊かに動かし、約 600 人の来場者の前で操演を披露。モッコの一挙手一投足に拍手が沸き、会場は笑顔に溢れました。東北の人々の思いやメッセージを預り TOKYO へ向かうモッコの姿が一つの目標に向かって力を合わせる人々の姿と重なり、復興への歩みを表現しました。
 - 岩手県立高田高等学校書道部による書道パフォーマンス、陸前高田市からは氷上共鳴会による迫力ある氷上太鼓の演奏、釜石市からは錦町虎舞の伝統芸能を披露。そして、最後に青森県の千葉勝弘社中から「津軽あいや節」と子どもたちによる「黒石よされ」を披露しました。4 団体のカー杯の演舞に会場からは大きな拍手が起こり、復興への思いを表現しました。
 - イベントと併せて、海外メディアツアー（4 社参加）を実施し、東北文化や復興の状況等を海外へ発信しました。



【宮城会場】

- 日 時 : 2021 年 5 月 22 日 (土)
- 場 所 : 宮城県岩沼市 千年希望の丘 相野釜公園
- 実施形態 : 無観客開催・メディア公開
- 出 席 者 : 古宮 正章 東京 2020 組織委員会副事務総長
村井 嘉浩 宮城県知事
菊地 啓夫 岩沼市長
箭内 道彦 クリエイティブディレクター
沢 則行 人形デザイン設計 人形製作操演 総指揮

○ 実施内容

- 当時の宮城県内の新型コロナウイルス感染症の感染状況等を踏まえ、宮城県とも協議の結果、有観客での開催を見送ることにいたしました。しかしながら、巨大人形「モッコ」が、岩手、宮城、福島と東北各地のバトンを繋ぎ、東北の人々の思いを集めながら東京を目指して旅を続け、国内外へ東北の現在の姿を発信していくことは、本プログラムを実施する上で必要不可欠なことでした。そのため、本会場でのモッコのパフォーマンスをメディアに公開し、岩沼市の皆さんからのメッセージを菊地市長から預り、「全国、世界から支援を受けて復興した」という思いやメッセージの発信を行いました。



【福島会場】

- 日 時：2021 年5 月29 日(土)
- 場 所：福島県南相馬市 雲雀ヶ原祭場地
(相馬野馬追祭場地)
- 実施形態：無観客開催・メディア公開
- 出席者：古宮 正章 東京2020 組織委員会副事務総長
内堀 雅雄 福島県知事
門馬 和夫 南相馬市長
箭内 道彦 クリエイティブディレクター
沢 則行 人形デザイン設計 人形製作操演 総指揮

○ 実施内容

- 福島県内の新型コロナウイルス感染症の感染状況等を踏まえ、福島県とも協議の結果、有観客での開催を見送ることにいたしました。しかしながら、巨大人形「モッコ」が、岩手、宮城、福島と東北各地のバトンを繋ぎ、東北の人々の思いを集めながら東京を目指して旅を続け、国内外へ東北の現在の姿を発信していくことは、本プログラムを実施する上で必要不可欠なことでした。そのため、本会場でのモッコのパフォーマンス及び相馬野馬追中ノ郷騎馬会による法螺貝の吹奏をメディアに公開し、南相馬市の皆さんからのメッセージを門馬市長から預り、「モッコが福島の大地に立ち、青空の下で、伸び伸びと力強く歩んでいく」という思いやメッセージの発信を行いました。
- また、モッコパフォーマンスに合わせて、相馬野馬追 中ノ郷騎馬会〔福島県〕による法螺貝の吹奏を行いました。



【東京会場】

- 日 時：2021 年7 月17 日(土)
- 場 所：新宿御苑 風景式庭園
- 実施形態：無観客開催・メディア公開・オンラインライブ配信
- 出 席 者：橋本 聖子 東京2020 組織委員会会長
 箭内 道彦 クリエイティブディレクター
 沢 則行 人形デザイン設計 人形製作操演 総指揮
- 実施内容
 - 本事業は、東京都内における緊急事態宣言の発出を踏まえ、より安全・安心な環境で実施するため、無観客での開催とし、オンラインで全世界へライブ配信。国内外の約102万人に視聴いただきました。
 - 予定していた「東北絆まつり連携プログラム」の実施を見合わせることにし、東北絆まつりのPR 映像を紹介することとしました。
 - モッコの操演に加えて、東北で預かった数々のメッセージから歌詞を紡いだ「とうほくの幸」を歌手の石川さゆりさん、ラッパーのMammy Dさんが力強く歌い上げ、世界へ発信しました。
 - 会場には多くのメディア(国内：20 社、海外11 社) が来場し、国内外にイベントの様子や、東北復興に向けた人々の思い等が発信されました。

(8) 本事業の成果・レガシー

- 岩手県会場での参加者にアンケートを実施。「東北各地域の文化の発信ができたイベントだった」(そう思う：35%、ややそう思う：46%)、「東北復興のために貢献しているイベントだった」(そう思う：32%、ややそう思う：40%) など、東北復興にとって意義のあるイベントであったと評価をいただき、復興オリンピック・パラリンピックに大きく貢献することができたと言えます。
- 「東北復興」をテーマとしたプログラムとして、モッコや「とうほくの幸」が力強く復興へと歩む東北の姿をオンラインライブ配信や多くの海外メディアの報道を通じて、世界に発信し、支援をいただいた人々に感謝を伝えました。また、同じような自然災害から立ち直ろうとしている世界中の人々に勇気を与え、元気と笑顔を送ることができました。



『とうほくの幸』

ぞばい ぞばい ずとずど ねでで みゃんが みゃんが ベベベ
うおお うおお うおお

[verse#1]

歩く 歩く 歩く モッコは歩く のっし のっし 強く 優しく 明るく
道の奥の人々の 祈りと願いをのせて 一歩 一歩 少しずつ 一歩一歩
歩く 歩く 歩く モッコは歩く のっし のっし のっし 足取りも軽く
世界中の人々の エールとラブを集めて 一歩 一歩 一歩 今日もまた一歩
ぞばい ぞばい ずとずど ねでで みゃんが みゃんが ベベベ
うおお うおお うおお

[verse#2 / Iwate]

奇跡の松が立つ街に 10回目の春が来る 生まれ変わった街並みに 生暖かい風が吹く
臉の裏に 懐かしい景色 それぞれの歴史 されどこの場で生きていこう 「復興」の二文字に
己重ねて
鳴り響く祭囃子 海に木霊し 鎮まる嵐
どんな困難にも立ち上がる 見とけ童(わらし) これぞ東北魂
未だ見ぬ日々に躍る気持ち あの日あの場所に残した気持ち
揺れる思いはそのままに 紡いでいこう次の物語 三陸
ぞばい ぞばい ずとずど ねでで みゃんが みゃんが ベベベ
うおお うおお うおお

[verse#3 / Miyagi]

あの頃4、5歳 だった子供たちも14、5歳 中3になった
臃げなその記憶たどってたくさんの人々の支援を知った
ありがとう ありがとう 次は私たちが手差し伸べましょう
この恩を 別の誰かに 繋げて欲しい また別の誰かに
カタチの それは進めど ココロの それは未だに
忘れないで「東北よ、再び」はまだまだこれから 始まったばかり
救いはいつも 君の笑顔 宮城の明日をともに描こう
きっと片目の龍も街の発展 青葉の城から見守ってる
ぞばい ぞばい ずとずど ねでで みゃんが みゃんが ベベベ
うおお うおお うおお

[verse#4 / Fukushima]

そして福島 浜通り ここで生きてる いつも通り
空は青く 光る緑 海からの恵みと大地の実り
今日この日を迎えられなかった 全ての人に 捧げる祈り
がんばっぺ がんばっぺ がんばっぺ 福島
よくがんばった がんばった がんばった がんばった東北
伝えて ここで起きたこと 伝えて ここのいいところ
伝えて 乗り越えたところも 伝えて 遅れてるところも
伝えて たくさんのうまいもん 伝えて あったかい人々
伝えて 福島の今を 伝えて 僕らの大切なもの
それはふるさと 見慣れたふるさと 前よりずっと大好きなふるさと
今はまだ 帰れない地区も 徐々になくなっていくだろう
その日 様々な色の花を集めて 鮮やかな花束を作ろう
ありふれた日々に感謝しながら それが東北の宝だから
ぞばい ぞばい ずとずど ねでで みゃんが みゃんが ベベベ
うおお うおお うおお

[hook reprise]

歩く 歩く 歩く モッコは歩く
のっし のっし 強く 優しく 明るく
道の奥の人々の 祈りと願いをのせて
一歩 一歩 少しずつ 一歩一歩
歩く 歩く 歩く モッコは歩く
のっし のっし のっし 足取りも軽く
世界中の人々の エールとラブを集めて
一歩 一歩 一歩 今日もまた一歩

<わっさい>



(1) テーマ「参加と交流」

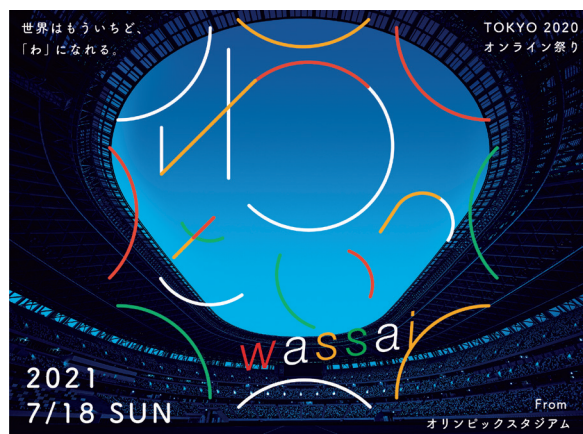
新型コロナウイルス禍の状況を踏まえ、東京2020大会を象徴するオリンピックスタジアムをVR化した会場を作り、国内外全ての人々に参加機会を提供するために、オンライン配信という新しい手法でのイベントを実施し、東京2020大会直前期の機運醸成の最大化を図りました。

(2) 事業目的

新型コロナウイルスは国の内外を問わず、少なからず「分断」を生みしました。

家族、友達、国と国、地域と地域。こんな時代、時期だから、世界は繋がることが必要です。世界はもう一度、輪になれると願い、みんなと一緒に、オンラインで繋がり、踊りの輪を作る。そんなお祭りが「わっさい」です。

「わっさい」は、「僕たちの国が生まれる」ところから始まる、古事記の時代から現在の国立競技場までを旅する物語です。物語の中で世界中の人が、踊りや歌で参加して、輪になり、環をつくり、和を生む、お祭り。オンライン上の新しい祭りを通して、世界中の人々の参加と交流の実現を目指しました。



(3) 企画制作体制

- 総合演出：菅野こうめい
- わっさいDance振り付け：アオイヤマダ、高村月
- 楽曲提供(和心)：WANIMA
- 舞台アート監修：日比野克彦
- 衣装デザイン：ひびのこづえ
- 出演者：WANIMA
- ダンサー：アオイヤマダ、高村月、YOSHIE、陸、松岡歩武、CHISE NINJA、KUMI、MONDO
Chikako Takemoto、葦原海、点滅、清水舞手、飯塚湊玄、高岸いとひ

(4) コンセプト

世界はもういちど、「わ」になれる。

子どもたちを始め、世界中の誰もが文化交流できる場所。

それがこの日はじめてオンラインで開催される、新しいお祭り「わっさい」です。

みんなでオンラインで「わ」になって歌って踊って、大きな「わ」をつくろう。

世界はもういちど、「わ」になれると信じて。

(5) 事業内容

① 参加促進策

- みんなで歌って踊ろう! わっさい Dance & Music
 - ロックバンド WANIMA 提供の楽曲「和心」に、次世代の表現者であるアオイヤマダと高村月が、オンラインで世界を「わ」にする踊りを制作しました。
 - 踊って参加するモチベーションを上げるため、事前に踊りの振付の動画を配信し、イベント本番への参加・視聴への期待感を高めました。
- イラストをデジタルで事前投稿して参加
 - 世界中の人々が「わっさい」に参加できる仕掛けとして、全世界から架空のいきもののイラストを事前投稿いただき、投稿者のアバターたちがバーチャルオリンピックスタジアムの「わっさい」に参加しました。



【日本国内からの投稿】



【海外からの投稿】



② オンライン配信

- 開催日時：2021年7月18日(日) 18時～
- ライブ配信視聴者数：約85万人

第一部：「わっさい」誕生の物語

あらそい、わざわいが絶えない混沌とした世界から、「わ」になることで平和が訪れたという「わっさい」というお祭りが生まれるまでの物語をダンサーたちが「ほのお」や「みず」、「かぜ」といったテーマのパフォーマンスで表現し、「わっさい」誕生の物語を伝えました。



第二部：わっさい！ 「わ」になっておどれや 「わ」になってうたえや

場所をバーチャルなオリンピックスタジアムに移し、ロックバンドWANIMAも登場。世界12カ国(イスラエル/インド/インドネシア/オーストラリア/クロアチア/台湾/ネパール/パキスタン/フランス/マダガスカル/レバノン/中国)とライブ中継をつなぎ、世界各国からイラストで投稿された2000以上の架空の生き物たちとともに、歌って踊って一つの「わ」になるオンラインのお祭り「わっさい」を楽しみました。



配信スタジオの様子



(6) 本事業の成果・レガシー

- コロナ禍の状況を踏まえ、国内外全ての人々に参加機会を提供するためオンラインイベントとして実施した結果、約85万人以上の人々に視聴いただきました。オンラインの特性を活かした新しい手法でのイベントだからこそ大規模に、「わ」になる体験と時間の共有を生み出し、世界中の人々の参加と交流を実現できました。
- 次世代の才能や日本の誇るダンサーが高品質な舞台芸術を作り上げました。表現者としての今後の更なる活躍が期待されます。
 - メインパフォーマーには、次世代の才能であるアオイヤマダと高村月を起用しました。
 - 舞台を構成する『太陽、炎、風、水、森』などの要素から想起されるイメージを日比野克彦と東京藝術大学の学生チームがデザインし、CG空間上に取り込み、映像に融合させることで迫力のある魅力的な舞台が仕上がりました。
 - 世界でも活躍するダンサー達が鍛え上げた心と肉体を駆使したパフォーマンスで表現しました。

<ONE - Our New Episode-Presented by Japan Airlines>

(1) テーマ「共生社会の実現に向けて」

オリンピックからパラリンピックへの大会移行期に「共生社会の実現に向けて」をテーマにした文化プログラムを通じて、世の中の「多様性」や「共生」に関する関心を最大化するとともに、オリンピックにおける熱狂や盛り上がりを、パラリンピックへと繋いで、パラリンピックムーブメントの喚起を図りました。

ONE

- Our New Episode -

Presented by Japan Airlines

(2) 事業目的

共生社会の実現に向けて、多くの人々が本事業に参加し、障がいの有無、ジェンダー、国籍など、多様な個性を持つ人々が出会い、交流することで、その価値を感じ、気づき、多様性や共生社会に対する「共感・共鳴」に繋がり、そして、意識や行動に変化をもたらす「きっかけ」を創ることを目指しました。

(3) コンセプト

個々(ここ)からはじまる、新しいひとつの物語。

一人ひとり異なる個性をもつ人の物語が、

集まり、交じり合い、つながり、そして共創することで、

みんながひとつになるような、さらに新しい物語をつむぎだし、

その物語を次代へつなぐレガシーとして引き継いでいきます。

(4) プログラム

【MAZEKOZE アイランドツアー】



① コンセプト

多様な個性の交わりとつながりから生まれる物語。

障がい者、健常者、ジェンダー、外国人など、様々な個性をもつアーティストたちの共創による至高のエンターテインメントは、深い感動と共感をよび、他者を認め自分を知る契機となる。多様な個性の交わりとつながりは、共生社会の実現に向けて、新たな物語のはじまりとなる。

② 企画制作体制

- 総合構成・演出・総指揮 東ちづる
- 参加アーティスト

平原 綾香(ミュージシャン)、小島 よしお(お笑い芸人)、梶原 徹也(ドラム奏者)
三ツ矢 雄二(声優/マルチクリエイター)、ダンプ 松本(女子プロレスラー)
レスリー・キー(写真家/映像監督)、マメ 山田(日本一小さい手品師)
清野 茂樹(実況アナウンサー)、松永 貴志(ピアニスト/作曲家)
ドリアン・ロロブリジーダ(ドラァグクイーン)、GOMESS(ラッパー)
サッシャ(ラジオDJ/タレント)、大前 光市(義足のダンサー)
青空応援団(社会人応援団)、あそどっぐ(芸人)、井桁裕子(人形作家)
糸あやつり人形一条座、えびさわ なおき。(アコーディオン奏者)
大窪 みこえ(劇団員)、大橋 ひろえ(演出家/俳優)
大阪府立登美丘高等学校ダンス部、尾上 秀樹(中棹三味線奏者)
桂 福点(全盲の落語家)、金澤 翔子(ダウン症の書家)
かんばら けんた(車椅子ダンサー)、人の森ケチャップ(特性だらけの劇団)
後藤 仁美(小さなモデル/俳優)、光陽師 想真(自閉症ダンサー)
佐藤 ひらり(全盲のシンガーソングライター)、Sanika&Minori(ダンサー)
侍かふえ(SAMURAI パフォーマンス集団)、鈴木 清貴(ダンサー/振付家)
杉田 和人(ヘアメイクアップアーティスト)、DAICHAN(ダンサー)
ちくちく 野口佳代(刺繍作家)、ちびもえこ(小人バーレスクダンサー)
どっこいしょ隊(ダウン症のダンサー)、中津川 浩章(美術家)
西垣 恵弾(闘うバイオリン弾き)、野澤 健(役者)
BABI&Kaie(ファッションアーティスト)、Funk-a-Baby(タップダンサー)
藤平 真梨(ダンサー/振付家)、プリティ 太田(こびとプロレスラー)
森田 かずよ(ダンサー/俳優)、森本 ケンタ(作曲者/ギタリスト)
ミスターブッタマン(こびとプロレスラー)
矢野ディビッド(ミュージシャン/俳優/モデル/MC)
矢野マイケル(シンガーソングライター/ラッパー)
矢野 サンシロー(シンガーソングライター/ダンサー/薬剤師)
悠以(両声類シンガーソングライター)、陽介(太鼓奏者/舞台芸術家)
坂巻善徳 a.k.a. sense(美術家)、ピーター・フランクル(数学者/大道芸人)

③ 実施体制

協力：東京都下水道局

後援：渋谷区

④ 事業内容

9つの個性的な島を旅することで、まぜこぜ(多様性)のおもしろさや心地よさを体験—エンターテインメントの力によって多様性や共生社会の魅力をユニークに表現—

- ジェンダー・年齢・国籍・障がいの有無など様々な個性・特性のあるアーティストやエンターティナー等のアートや音楽、パフォーマンス。それらが繋がり交じり合う島々を巡り、「まぜこぜ=多様性」を可視化。
- それはまさに共生社会の居心地の良さに気づく旅。この「MAZEKOZE アイランドツアー」によって、視聴者は自分と同じ人などひとりもないということに気づくことにもなり、共生社会の実現に向けた「きっかけ」「出会い」「共鳴・共感」へと誘う物語。
- 観客(参加者)は、MAZEKOZE アイランドツアーに参加をし、9つの個性的な島を旅しながらバーチャルな「共生社会」を体験することで、ジェンダー・年齢・国籍・障がいの有無など様々な個性・特性のあるアーティストやエンターティナー等のアートや音楽、パフォーマンス、それらが繋がり交じり合う共生社会の居心地の良さに気づく。

<9つの島を巡るツアー>

■黄金の島

ツアーのスタートは、毎日のようにお祭りが行われている豊かな文化をもつ島。まずは、ダウン症の書家・金澤翔子が、筆文字で歓迎の気持ちを表現。得意のダンスを踊りはじめると、紅白の衣装に身を包んだ同性カップルのダンサー Sanika&Minoriがあらわれ、息のあった舞踊を披露。祭りには欠かせない伝統的な楽器である太鼓や三味線がにぎやかに鳴り響き、祭りを盛り上げました。



■ケモノの島

色とりどりの花々も咲き乱れる深い森の中。光陽師想真(自閉症のダンサー)が、日本では古くから祭りごとの際に舞われてきた「狐舞」を披露。江戸時代から続く伝統芸能にルーツをもつ糸あやつり人形一条座の人形たちも狐面をかぶり、舞い踊りました。一条座は、鍛錬された術で、さまざまなケモノたちに命をふきこむのでした。

続いて、障がい者と健常者が一緒につくる舞台づくりを実践している劇団「人の森ケチャップ」が登場。カラフルでちょっと不思議な「アリス」の世界をパフォーマンスで表現しました。



■異相の島

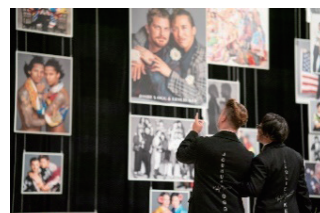
唯一無二の肉体で、奇跡的な美を生み出す「異相の女神」が存在する島。先天的に障がいがあるダンサー森田かずよが、ゆがんだ身体を自在にあやつり、「G線上のアリア」を踊りました。まるでダンスに寄り添うような美しい不協和音を奏でるのは、ピアニストで作曲家の松永貴志。



■ムーサの島

ムーサとは、ギリシャ神話に出てくる芸術の女神たちのこと。その名の通り、この島はアート島。セクシュアルマイノリティのカミングアウトプロジェクトなど社会的活動にも取り組む写真家レスリー・キーが、自身の作品を紹介しながら、写真への想いを語りました。写真にこめたメッセージは、「We are living together. We are also diverse」

また、障がいがある作家、イラストレーター、画家、デザイナーなど、さまざまなアーティストたちが集合。自由な感性でライブペイントを行い、言葉を越えたコミュニケーションの可能性を発信しました。

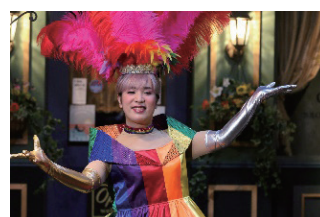


■虹の島

セクシュアリティやジェンダーの多様性をあらわすLGBTQコミュニティのシンボルカラーでもある、虹色で彩られた島。

男の声と女の声の二つの声を使い分ける両声（リョウセイ）類でトランスジェンダー女性のシンガーソングライター悠以が、レインボーのドレスをまとうて登場。「男とか女とか、どっちでもええやん!」「大事なのは、壁乗り越えること 人生を楽しむこと」という、メッセージソング『Docchi?!(どっち?)』を歌いました。

続いて、世界で唯一の寝たきり芸人、あそどっぐが、笑える写真集『あそどっぐの寝た集』を紹介し、オーディエンスを「果たして、本当に、笑っていいのか……」という葛藤に陥れました。



■超人の島

凡人の枠には収まらない、ラディカルな超人たちが住む島。

夜昼眠らぬ都市、地下25メートルの異空間で、ラッパーのGOMESSが自閉症と診断されたときの衝撃を表現した代表作「人間失格」を披露。ダンサーのかんばらけんたが、車椅子を自在にあやつり、アクロバティックに舞い踊りました。



■たたかひの島

日本でたった二人となったこびとレスラーとして、風前の灯火を守り続けているのが、プリティ太田とミスターブッタマン。今回はこの2人が仲間割れをしたという設定で、プライドをかけた死闘を展開。最強のヒーロー「極悪同盟」のダンプ松本も参戦し、バッシバッシ容赦なく竹刀をふりおろします。リングアナをつとめるのは、なんと、声優業界の重鎮、あの三ツ矢雄二。ゲストコメンテーターとして、お笑い芸人の小島よしおも登場しました。



■ちむぐくるの島

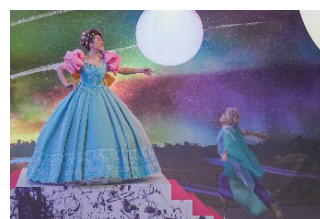
ちむぐくる(肝心)とは「沖縄の言葉＝うちなーぐち」で、心の優しさや豊かさをあらわす言葉。

この島で、全盲のシンガーソングライターの佐藤ひらりが歌うのは、第75回ゴールデングローブ賞主題歌賞を獲得し世界的大ヒットとなった「This is me」。大阪府立登美丘高等学校ダンス部サポートのもと、日本とアフリカにルーツをもちJAFRICAN(ジャフリカン)というジャンルに捉われない音楽を展開するYANO BROTHERSらと共に、「I am who I'm meant to be, this is me(これが私のあるべき姿、これが私)」と熱唱しました。



■カタイロツケの島

カタイロツケは、日本の北部地方、とりわけ北海道の先住民族であるアイヌの言葉で、仲がよいこと＝「愛」。この島のテーマは、ずばり「愛!」。深い愛で結ばれたさまざまなファミリーに囲まれ、平原綾香が「Jupiter」を歌いました。遅しく、美しく、優しいダンスで、Jupiterの荘厳さを表現するのは、義足ダンサーの大前光市。



■黄金の島

ツアーの終着地は、再び黄金の島。サッシャの軽快なDJプレイ、自閉症のラッパー GOMESSのフリースタイルに続いて、聴こえてくるのは美空ひばり往年の名曲「お祭りマンボ」。平原綾香、ドリアン・ロロブリジーダらが歌い、祭りを盛り上げました。さらに、カラフルな衣装をまとったまぜこぜな総勢150名にのぼるオールキャストが、ダンス、手品、大道芸、チャンバラ、民族舞踊などなど、次々と個性的なパフォーマンスを披露。ラストは青空応援隊が登場し、「フレー！フレー！人類。フレー！フレー！ニンゲン」と、全世界にむけて応援メッセージを発信しました。



⑤ オンラインライブ配信の実施内容

コロナ禍の状況を踏まえ、障がい者などの参加の安全性を担保しながら、より多くの方に参加いただくために、オンラインイベントとして実施しました。

- 日程：2021年8月22日(日) 16時～
- ライブ配信視聴者数：約116万人

⑥ 本事業の成果・レガシー

- MAZEKOZE アイランドツアーは、エンターテインメントを通じて、多様性や共生社会の素晴らしさを認識する機会を視聴者に提供しました。
- 1回の事業で人々が多様性の本質を理解し劇的な意識や行動の変化が促されるものではないが、映像視聴者の多くが多様性や共生社会に対する「共感」や「気づき」を得ることで、意識や行動の変化の「きっかけ」となったことが、視聴者アンケートの結果から示されています(きっかけになった：79%、ややきっかけになった19%)。本事業から生まれる出会い、つながり、交流が、視聴者それぞれの新たな物語(エピソード)の誕生へとつながり、これらの広がりと共に共有こそが、共生社会の実現に向けての重要な一歩となります。

- 今後、本事業を契機に多様な人々が参加するコミュニティが形成され、官民組織の協働と連携が深化拡大することで多様性に係る質の高い活動が増大し、様々な個性を持つアーティストの活躍の場が増えることを期待しています。
- オンラインイベントでの実施により、特に障がい者などの外出が困難な方や世界中の方などが安心して参加できる環境を提供できたことにより多くの方々に視聴いただきました。
- オンラインの特性を生かし、舞台を特定の地域に限定せず非日常的な空間での体験提供を実現したことで、多彩なプログラムを提供できるなど、新しい文化プログラムの形を示すことができました。

【Our Glorious Future～KANAGAWA 2021～カガヤク ミライ ガ ミエル カナガワ 2021】

① コンセプト

演劇、ダンス、アート、音楽、伝統芸能など、文化芸術各分野の最先端アーティストが、「共生社会の実現に向けて」をテーマにそれぞれの分野の枠を融解・共創して、障がい、年齢、ジェンダー、国籍に関わりなく「わたし」たちが輝ける「新しい未来の姿」を文化芸術の力により神奈川から世界に発信しました。



② 実施体制

主催：神奈川県、東京2020組織委員会
共催：公益財団法人神奈川芸術文化財団

企画体制

ダンス部門ディレクション：森山 開次

演劇部門ディレクション：多田 淳之介

アート部門キュレーション：藤川 悠

音楽 三橋 貴風、サルサガムテープ

工芸 前田 正博

③ 事業内容

神奈川県にゆかりのある文化芸術各分野のアーティストが、神奈川県立音楽堂や神奈川県立青少年センターなど、前川國男が手掛けた日本を代表するモダニズム建築群のある「紅葉ヶ丘文化ゾーン」を中心に、「共生社会の実現に向けて」をテーマに、障がい者などとともに作り上げたダンスや演劇、音楽などによる文化プログラムの動画を、世界に向けて配信しました。

<ダンスのミライ>

- ディレクション：森山開次(ダンサー・振付家)

「1人ひとり異なるからだ」をテーマに森山開次・ひびのこづえ・川瀬浩介による協働作品『LIVE BONE』シリーズとして、義足のダンサー・大前光市をゲストアーティストに招き、前川建築の代表作 神奈川県立音楽堂で制作した新作映像のほか、AR 森山開次、大前光市ソロパフォーマンス、海の中で共生する多様な生き物を色鮮やかに描くパフォーマンス「WONDER WATER」を順次公開しました。スマートフォンからのアクセスで、森山開次の「キモかわ」ダンスを眼の前で楽しめる「AR森山開次」も制作しました。

■AR 森山開次「心臓」「胆のう」

振付・出演：森山開次 衣装：ひびのこづえ

音楽：川瀬浩介 AR コンテンツ制作：鈴木一太郎



■映像 LIVE BONE×神奈川県立音楽堂

「BODY difference | めぐり逢う内臓」

「BODY resonance | からだの音色」

「BODY face | 目と目で向き合う」

振付・出演：森山開次、大前光市

衣装：ひびのこづえ

音楽：川瀬浩介

映像監督：藤村港平



■映像 LIVE BONE×大前光市

演出：森山開次

振付・出演：大前光市

衣装：ひびのこづえ

音楽：川瀬浩介

映像監督：藤村港平



■映像 ひびのこづえ×ホワイトアスパラガス×川瀬浩介

「WONDER WATER」

振付・出演：ホワイトアスパラガス

(谷口界、ハチロウ)

衣装・美術：ひびのこづえ

音楽：川瀬浩介

映像監督：藤村港平



＜演劇のミライ 「しるやるかわるいるおどるプロジェクト」＞

○ 総合ディレクション：多田淳之介（演出家）

多田淳之介総合演出による、自分や他人を知ることから共生社会の実現へ一歩踏み出すためのプロジェクトです。共生へのヒントやきっかけとなる活動をされている方へのインタビューやワークショップのドキュメント映像、そして盆踊りをモチーフに、亡くなったヒト、失ったモノ、そして今いるわたしたちのこれからのためのセレモニー映像を制作しました。

■しるやるかわる共生ドキュメント

● 老いとの共生

『菅原直樹：老いとボケと演劇』

～認知症の人と“いま、ここ”を楽しむ～』



● モノとの共生

『大月ヒロ子：くふうよ！→』

（きったり・ぬったり・つないだり）→！ようふく』



● 自分との共生

『ヴィヴィアン佐藤：』

名付けられない時間、名付けられない空間、

名付けられない自分』



■いる・おどるセレモニードキュメント 『わんす おぼん な たいむ』

構成、振付：永野百合子（妖精大図鑑）

出演：飯塚うなぎ、永野百合子、間野律子、

山下恵実、安部萌、齊藤コン、住玲衣奈

特別出演：ヴィヴィアン佐藤

作調・演奏：やまみちやえ（太棹三味線）、

望月左太助（囃子）、

藤舎雪丸（囃子）、

迎田優香（笛）、西垣秀彦（唄）



<アートのミライ>

○ キュレーション：藤川悠（茅ヶ崎市美術館学芸員）

5組のアーティストの作品は、前川國男の建築群を舞台に場に呼応し、人・生物・光・音・風など有形無形のものたちと創られていきました。大きな流れの中で変わりつづける今、人の居ない空間に佇む作品を通して、本来であれば迎える予定であった人間の存在に深く想いを馳せ、ささやかな存在と多様なものたちとの共生について考えを巡らせるひとときを創出しました。



「あなたは、翌日私に会いにそこに戻ってくるでしょう。」
津田道子



「Culturing <O/Paper>cut」岩崎秀雄



「ステラノーヴァ」MATHRAX〔久世祥三+坂本茉里子〕



「空気の研究」三原聡一郎



「Ether - liquid mirror -」佐久間海士

<音楽のミライ>

■「楽しさを分かち合おう！」

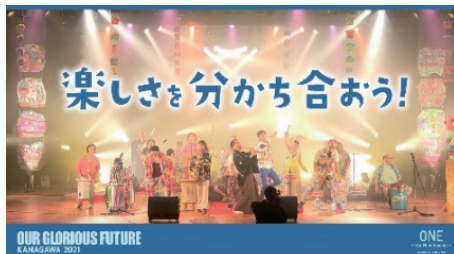
出演 サルサガムテープ、大山貴善

サルサガムテープのコンサートは、多様性や共生社会を声高にアピールするのではなく、ライブ演奏をして、サルサガムテープそのものが、多様性や共生社会を、目の前で具現化していきます。とびきり自由なライブ空間の中で、楽しさを分かち合い、本来必要のなかった心の壁がゆっくり崩れていく、心地よさを体験できる映像を配信しました。今回は、尺八演奏家の大山貴善とのジョイント演奏も行いました。

■「時をかける^{ヒビキ}韻 ～奇蹟の尺八 三橋貴風～」

出演：三橋貴風、伊丹雅博、三宅まどか、手使海ユトリ、水川寿哉、外山香、
首藤久美子、仙道さおり、福田栄香

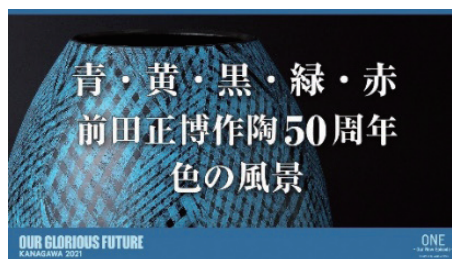
尺八の祖先は遠く古代オリエントであったという説があります。公演の前半は古の虚無僧の音楽から上方の地歌、そして武満徹ほかの現代の音楽、そして後半はギリシャの楽器ブズキ等とのコラボで、音楽の十字路を表現しました。



＜工芸のミライ＞

2019年第68回神奈川文化賞を受賞するなど、半世紀以上、神奈川・横浜を拠点に創作を続け、現代工芸界をリードする陶芸家 前田正博の華やかでありながら繊細、かつ重厚感のある作品を紹介しました。同時に、神奈川を代表する陶芸家、白石和宏と小林佐和子のオンライン展覧会も実施しました。

- 「青・黄・黒・緑・赤 前田正博作陶50周年 色の風景展
同時開催 白石和宏・小林佐和子 神奈川の作家展」
陶芸家：前田正博、白石和宏、小林佐和子



- トークショー「工芸から見える日本酒のミライ」
出演：前田正博、植野広生、外館和子、橋場友一



④ オンライン配信の実施内容

有観客での開催を予定していましたが、より安全・安心な環境で実施するため、オンライン配信事業のみに変更しました。

- 日程：2021年8月16日(月)～
- 公開した動画の本数：22本
- 撮影会場：紅葉ヶ丘文化ゾーン(神奈川県横浜市西区)等

⑤ 本事業の成果・レガシー

- 「ともに生きる社会かながわ」の実現を目指した取組を実施している神奈川県が参画し、東京2020組織委員会と共同主催で「カガヤク ミライ ガ ミエル カナガワ 2021 Our Glorious Future ～KANAGAWA 2021～」を実施しました。当初は、日本を代表するモダニズム建築群である「紅葉ヶ丘文化ゾーン」を会場に有観客での実施を計画していましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響等を踏まえ、オンラインでの映像配信に切り替えることとしました。
- 「共生社会の実現に向けて」というテーマを、神奈川県という一つの地域から、多彩で魅力あふれる文化芸術の力で、豊かに表現し、世界に発信することができました。
- また、今回大きな盛り上がりや関心と呼んだ東京2020パラリンピック大会の開催期間中に配信を開始したことで、視聴者の方の「共生社会」の理念の浸透に寄与しました。
- 神奈川県の文化芸術振興においては、ダンスや演劇、アート、音楽など、様々なジャンルの多くのアーティストが、東京2020大会を契機に参加したことにより、新たな人的ネットワークが構築されました。
- 今後は、こうした取組の成果を、東京2020大会のレガシーとして、神奈川県における文化芸術の振興を通じた共生社会の実現に向けた取組にしっかりと引き継いでいきます。

4 共催プログラム

(1) 選定プロセス

「東京2020大会を契機に実施される日本を代表する特別な文化プログラムであること」を要件として全国から応募を受付し、文化・教育委員会の有識者による審議を経て、東京2020組織委員会が32事業を決定しました。

<審査員>

- 青柳 正規 委員長(東京大学名誉教授、多摩美術大学理事長、奈良県立橿原考古学研究所所長)
- 秋元 雄史 委員(東京藝術大学大学美術館館長・教授、練馬区立美術館館長)
- 今中 博之 委員(社会福祉法人素王会理事長、アトリエインカーブクリエイティブディレクター)
- 小山 久美 委員(昭和音楽大学短期大学部教授)
- 宮田 慶子 委員(新国立劇場演劇研修所所長)
- 吉本 光宏 委員(株式会社ニッセイ基礎研究所研究理事)

※括弧内の肩書は審査時

(2) 事業の紹介

<事業名>

群馬古墳・埴輪わくわく体験プロジェクト

- 実施団体：群馬県
- 実施日程：2021年4月1日～9月5日
- 実施場所：群馬県立歴史博物館及び
綿貫観音山古墳ほか

【事業概要】

群馬県立歴史博物館で特別展示「新・すばらしき群馬のはにわ」やワークショップ、講座等を開催するとともに、綿貫観音山古墳等でのVR体験やアプリを使った県内古墳等の周遊、古墳カードの配布などを実施しました。日本一の埴輪県であり、東日本最大の古墳大国である群馬県から、日本の古墳文化を国内外に発信しました。



<事業名>

星降る中部高地の縄文世界～数千年を遡る黒曜石鉱山と縄文人に出会う旅～ 三十三番土偶札所巡り～山梨編～

- 実施団体：甲信縄文文化発信・活性化協議会
- 実施日程：2021年4月1日～8月7日
- 実施場所：山梨県立考古博物館・韮崎市民俗資料館・韮崎市ふるさと偉人館・南アルプス市ふるさと文化
伝承館・北杜市考古資料館・北杜市史跡梅之木
公園・春日居郷土資料館・釈迦堂遺跡博物館

【事業概要】

日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」を構成する山梨県の6市に所在する博物館等8施設が展示する構成文化財の土偶15点が対象。

観覧者は対象土偶を見学し、専用の御朱印帳に土偶御朱印を集めるイベント。



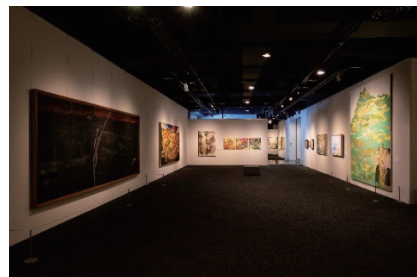
<事業名>

現代日本画の系譜 - タマビDNA展

- 実施団体：多摩美術大学
- 実施日程：2021年4月3日～6月20日
- 実施場所：多摩美術大学美術館
多摩美術大学アートテーク

【事業概要】

日本画はこの国で1000年以上続く伝統的な絵画様式。時代により変容しながらも今日まで受け継がれてきたのは、この様式が日本の風土や日本人の美意識、精神性に合っていたからといえます。本展覧会を通じて世界の人々に日本人の心のありように触れてもらい、日本画及び日本文化の魅力を世界に発信することを目的としました。



<事業名>

信州・アート・リングス～文化でつながる。文化を創る。そして美しい未来へ～

- 実施団体：長野県、（一財）長野県文化振興事業団、
長野県芸術文化協会、長野県教育委員会、
信州ザワメキアート展 2021 実行委員会
- 実施日程：2021年6月5日～9月12日
- 実施場所：長野県県民文化会館（ホクト文化ホール）ほか

【事業概要】

長野県芸術監督団の小林研一郎による音楽公演をはじめ、信州の自然を活かしたアーティスト・イン・レジデンス、信州ゆかりの作家による現代美術展や障がいのある方の美術展、県内各地の芸能を紹介する伝統芸能公演を多様な主体の参画のもとに実施し、信州文化の多彩な魅力を国内外に発信しました。



<事業名>

とちぎの「宝」フェスティバル～とちぎ版文化プログラムの集大成～

- 実施団体：栃木県
- 実施日程：2021年4月24日～9月12日
- 実施場所：県立文化施設

【事業概要】

東京2020大会への参加機運の高揚に貢献するとともに、平成29年度から取り組んできた「とちぎ版文化プログラム」の集大成として、県立文化施設において、芸術、文化財、郷土芸能など、栃木県内各地の特色ある文化資源を活かした文化事業をリレー方式で展開することにより、とちぎの文化の魅力を県内外に発信しました。



<事業名>

ふじのくに野外芸術フェスタ2021 静岡 宮城聡演出 SPAC公演 アンティゴネ

- 実施団体：ふじのくに野外芸術フェスタ実行委員会
- 実施日程：2021年5月2日～5月5日
- 実施場所：駿府城公園

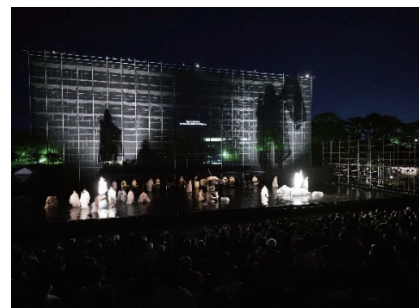
【事業概要】

国際的に活躍するSPAC-静岡県舞台芸術センターが、静岡市の中心地「駿府城公園」に野外舞台を設営し、芸術総監督宮城聡演出『アンティゴネ』を上演しました。

同作は2017年フランス、2019年ニューヨークで多くの観客を虜にしてきたSPACの話題作です。



写真撮影：平尾正志



写真撮影：猪熊康夫

<事業名>

リボン・アートボール2020展

- 実施団体名：茨城県 協力：筑波大学芸術系
- 実施日程：ワークショップ：2021年5月8日、6月13日、7月4日、10日、18日
作品展示会：2021年6月22日～7月4日、7月7日～24日
- 実施場所：かみす防災アリーナ、高萩市中央公民館、土浦市民ギャラリー、小川文化センターアピオス、北茨城市生涯学習センター

【事業概要】

使い古したスポーツ競技用のボールに絵を描いたり工作をしたりして、アートの力で再生させる取組が「リボン・アートボール」です。スポーツとアートとリサイクルを融合させた茨城発の取組です。

県内5か所でワークショップを開催しました。

なお、集大成としてリボン・アートボールフェスティバルを開催予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により中止となりました。



<事業名>

伝承のたまてばこ～多摩伝統文化フェスティバル2021～

- 実施団体：公益財団法人東京都歴史文化財団
アーツカウンシル東京、八王子市、公益財団法人八王子市学園都市文化ふれあい財団
- 実施日程：2021年5月29日、30日
- 実施場所：オンラインライブ配信
(一部を除きアーカイブ配信)

【事業概要】

車人形、お囃子、農村歌舞伎、影絵など多摩地域の伝統文化が集結するとともに能と高尾山薬王院の僧侶による楽劇高尾山、染物で演出したダンスパフォーマンスをお届けしました。

「伝承のたまてばこ」令和3年度のシンボルマークは、多摩地域で長く大切に紡がれてきた様々な伝統文化と革新が交差する様を表現しました。



<事業名>

2020 インターナショナル小倉百人一首 かるたフェスティバル

○実施団体：(一社)全日本かるた協会、文京区、
あわら市、大津市

○実施日程：2021年6月6日(あわら市会場)、
6月13日(大津市会場)

○実施場所：清風荘(福井県)、近江勸学館(滋賀県)

【事業概要】

(一社)全日本かるた協会と、競技かるたに縁の深い地である文京区、あわら市、大津市の4者で、東京2020大会に向けて競技かるたイベントを開催しました。

競技かるたの大会、競技かるたやバリアフリーかるた体験会、展示、講演会等、老若男女問わず様々な方に小倉百人一首や競技かるたの魅力を発信しました。

文京区会場は新型コロナウイルス感染拡大により中止。あわら市会場は無観客オンライン配信により実施。大津市会場は有観客(人数制限あり)及びオンライン配信により実施。



<事業名>

あきた民謡祭 2021

○実施団体：あきた民謡祭実行委員会

○実施日程：2021年6月13日

○実施場所：秋田ふるさと村ドーム劇場

【事業概要】

秋田の代表的な伝統芸能である秋田民謡を次世代に継承していくことを目的に、若手の担い手による公演を実施しました。また、民謡を通じた地域活性化を促進するとともに、秋田民謡を県内外に広く発信しました。



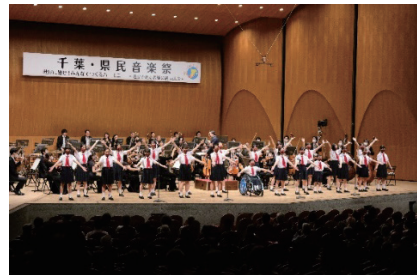
<事業名>

千葉・県民音楽祭～世界に響け!みんなでつくるハーモニー～ 世界を巡る音楽の旅 vol.3

- 実施団体：千葉県
- 実施日程：2021年6月20日
- 実施場所：千葉県文化会館大ホール

【事業概要】

世代や障害の有無に関わらず、様々な方が共にステージを作り上げる一般参加型コンサート。アマチュア演奏家や地域で活動する団体を公募し、千葉交響楽団と共演しました。参加者は、オーケストラ演奏、合唱、ダンス、音楽活動を行う障害のある方々によるステージのほか、プロのアーティストによるステージなど、多様な音楽を楽しみました。



<事業名>

加賀百万石文化めぐり

- 実施団体：兼六園周辺文化の森等活性化推進実行委員会、
いしかわの伝統文化活性化実行委員会
- 実施日程：2021年7月3日～8月28日
- 実施場所：石川県立美術館
石川県立歴史博物館
石川県立能楽堂
石川県立伝統産業工芸館

【事業概要】

藩政期から石川に息づく能楽と工芸のコラボレーションにより、伝統文化の魅力を複合的に発信する。①能楽堂での刀剣をテーマにした能、②博物館での刀剣の大規模な展覧会、③美術館での能装束の展示等を中心とする、集積した文化施設群による文化プロジェクト。



<事業名>

プレミアムよさこいin 東京

- 実施団体：2020 よさこいで応援プロジェクト実行委員会
- 実施日程：2021年7月4日
- 実施場所：品川インターシティホール
(オンラインLIVE配信)

【事業概要】

世界33の国や地域へ広がる日本を代表する祭り「よさこい」の、国内外の文化と融合した多彩な魅力を、LIVE配信を通じて世界に発信しました。

各地域を代表するチームの演舞や、視聴者参加型の総踊り等のプログラムを実施し、多くの皆様の視聴を通して、東京2020大会の開幕に向けてエールを送りました。



<事業名>

サイたまdeスポーツ&下総皖一音楽賞受賞者コンサート2021 ～埼玉から響く音楽のエール～

- 実施団体：埼玉県、(公財)埼玉県芸術文化振興財団
- 実施日程：2021年7月17日～9月11日
- 実施場所：さいたま文学館・埼玉会館

【事業概要】

東京2020大会の競技開催県である埼玉県において、大会開催にあわせて、県の文化資源を生かし大会の祝祭感も表現する展覧会及びコンサートを開催しました。県の文化芸術の魅力を国内外に発信するとともに一層の活性化を図りました。なお、開催に当たっては、障がい者や外国の方が観覧しやすいように配慮しました。

企画展「サイたまdeスポーツ」 7/17(土)～8/29(日)
下総皖一音楽賞受賞者コンサート2021 9/11(土)



<事業名>

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会 安全祈願奉納流鏝馬

○実施団体：公益社団法人大日本弓馬会

○実施日程：2021年7月17日

○実施場所：明治神宮西参道流鏝馬馬場
(オンラインライブ配信)

【事業概要】

世の中の平和や人々の幸せを祈って行う流鏝馬を、このたびは大会の安全な開催と成功を祈念して流鏝馬を実施しました。会場では実況アナウンスとともに、流鏝馬の歴史や見所などを日本語と英語で解説。新型コロナウイルス感染症蔓延防止のため、無観客開催となったが、オンラインライブ配信を行うことで、自宅でも流鏝馬を見て、その魅力を理解できるような環境を提供しました。



<事業名>

江戸東京の芸能 Discover Tokyo

○実施団体：(公社)日本芸能実演家団体協議会

○実施日程：2021年7月23日～8月7日
(期間中 土日祝開催)

○実施場所：江戸東京博物館

【事業概要】

東京2020大会を機に、夏休みの期間、伝統芸能を幅広い世代で親しんでもらい、その魅力を伝えるため、解説付き初心者向け公演とプロが丁寧に教える体験プログラム(日本舞踊・三味線・箏・落語)を実施しました。ボクシング会場(国技館)に隣接する江戸東京博物館の展示企画とも連携しオリンピック開催期間中、日本の伝統文化を世界に、全国に発信しました。



＜事業名＞

TURN

- 実施団体：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団
アートカウンシル東京・東京都美術館、
特定非営利活動法人 Art's Embrace、
国立大学法人東京芸術大学、国立新美術館
- 実施日程：2021年7月19日～9月5日
- 実施場所：東京都美術館、国立新美術館

【事業概要】

障害の有無、世代、性別、国籍、住環境等の背景や習慣の違いを超えた、多様な人々の出会いによる相互作用を、表現として生み出すアートプロジェクト。国立新美術館での「TURN茶会」では、「地球・人をアートで問う」をテーマに、互いに手を動かしながら、心持ちを交わし合う場を創出しました。また、東京都美術館と特設ウェブサイトで開催した「TURNフェス6」では、「出会いが広がる」をテーマに、美術館での作品展示やワークショップ、映画上映、オンラインプログラムを通してアクセシビリティを体験していただくことで、TURNの取組や考え方を紹介しました。



「TURNフェス6」写真撮影：富田了平



「TURN茶会」

＜事業名＞

東京2020オリンピック・パラリンピック能楽祭

- 実施団体：公益社団法人能楽協会
一般社団法人日本能楽会
- 実施日程：2021年7月27日～9月3日
- 実施場所：国立能楽堂

【事業概要】

能楽には、悠久の歴史を背景とした平和や多様性などの日本らしさ、伝えるべき日本人の心が詰まっています。国内外の多くの方々に向け、日本の魅力発信をテーマに、「日本文化の総合展示」としての能楽フェスティバルを開催しました。



<事業名>

福岡和文化プロムナード 世界和太鼓フェスティバル

○実施団体：福岡和文化プロムナード実行委員会
（福岡県、公益財団法人アクロス福岡、
福岡県文化団体連合会）

○実施日程：2021年7月29日

○実施場所：アクロス福岡シンフォニーホール

【事業概要】

障がいのあるなし、国籍等に関わらず、世界に広く普及している和太鼓のU-18、世界和太鼓フェスティバルを開催し、福岡から世界に向けて和文化を情報発信しました。

同時に、福岡の文化団体が日舞、茶道、いけばななどの和文化を披露することにより、福岡において日本の和文化のすばらしさを体験していただきました。



<事業名>

インクルーシブ NIPPON Shinagawa 発 2020 能・狂言特別公演

○実施団体名：品川区、社会福祉法人トット基金、
公益財団法人十四世六平太記念財団

○実施日程：2021年8月1日～ 8月28日

○実施場所：国立能楽堂、喜多能楽堂

【事業概要】

能楽の分野でユニークな活動を続ける二つの団体の制作による能狂言特別公演。障がいの有無、年齢や国籍に関わらずあらゆる人が出会い、共に楽しみ、新たな価値を発見する共生社会の実現に向け、日本が世界に誇る伝統演劇である能楽のインクルーシブな可能性をオリンピック競技開催地である品川区から世界へ向けて発信しました。



<事業名>

日本の伝統芸能「能楽」と西洋の伝統文化「オペラ」の融合による 文化芸術発信事業

- 実施団体：主催：神奈川県
共催：神奈川県立県民ホール
神奈川県立かながわアートホール
後援：鎌倉市
- 実施日程：2021年8月7日
- 実施場所：神奈川県立県民ホール(オンラインライブ配信)

【事業概要】

神奈川県の伝統文化や歴史への関心を深め、文化芸術の多様性理解や国際間の相互理解を促進するため、神奈川県立県民ホールを会場として、日本の伝統芸能と西洋の伝統文化を融合させた公演を動画配信することで、神奈川県及び日本の魅力と文化の多様性の素晴らしさを国内外に向けて発信しました。



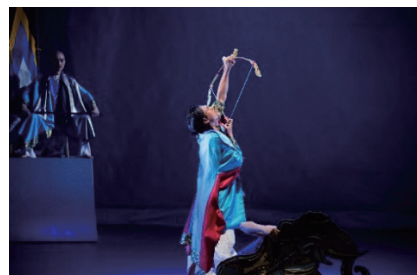
<事業名>

完全版マハーバーラタ～愛の章／嵐の章

- 実施団体：「完全版マハーバーラタ」実行委員会・文化庁／
共催：公益財団法人セゾン文化財団
- 実施日程：2021年8月20日～23日
- 実施場所：なかのZERO 大ホール

【事業概要】

インド古代叙事詩「マハーバーラタ」を全編舞台化し、上演を行いました。ふたつの部族による対立の物語を現代社会に重ね合わせつつ描き、「平和」「共生」のメッセージを発信しました。



<事業名>

国立競技場の木のコカリナが奏でるコンサート ～世界中の友達に平和を～

○実施団体：特定非営利活動法人日本コカリナ協会

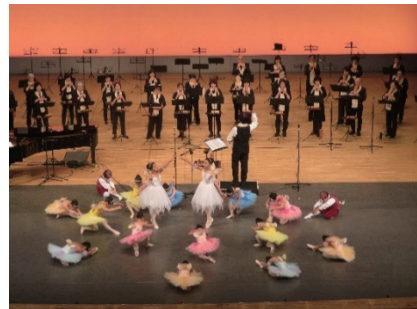
○実施日程：2021年8月22日

○実施場所：新宿区立文化センター

【事業概要】

コカリナは木でできたオカリナです。日本の音楽家・木工家の手によって豊かな音色、幅広い音域を奏でられる楽器として進化しました。

このコンサートでは、オリンピック会場である国立競技場の建替えのために伐採された木からできたコカリナを子ども達と共に奏で、コロナ禍にいる世界中の子ども達が、一日も早く平和な世界を取り戻せるよう響かせました。



<事業名>

チャンネルアートモーメント品川2021 ～ Art Empowerment ～

○実施団体名：品川区／一般社団法人天王洲・

チャンネルサイド活性化協会

○実施日程：2021年8月28日

○実施場所：天王洲(天王洲運河/チャンネルイースト/
チャンネルウエスト) (オンラインライブ配信)

【事業概要】

天王洲運河の水辺を先進的で斬新な会場空間として仕立て、運河上に係留した台船をステージ及び客席として活用し、対岸のビル壁面に投影するプロジェクションマッピング映像の演出とともに、日本の伝統芸能及び文化芸能コンテンツを、オンラインライブ配信でご覧いただきました。



<事業名>

わらアートまつり2021

○実施団体名：新潟市

○実施日程：2021年8月29日～9月12日

○実施場所：上堰潟公園

【事業概要】

日本の食文化の中心であり、米どころ新潟を象徴する稲作農業。その副産物である「稲わら」を材料にした「わらアート」作品。東京の美術大学生が提供したデザインをもとに、現地で新潟のサポーターが制作・展示を行い、新潟市が誇る文化の魅力を国内外に発信しました。



<事業名>

三陸国際芸術祭 2021 『髪長姫』 アジアが紡ぐ笛ものがたり

○実施団体：三陸国際芸術推進委員会、
国際交流基金アジアセンター

○実施日程：2021年9月12日

○実施場所：オンライン(収録配信)

【事業概要】

三陸の民話「髪長姫」を題材に、インドネシア、カンボジア、三陸の民俗芸能団体が協働して創作した舞台作品を発表しました。国境を越えた人の移動が困難な状況の中、2021年5月から各国をオンラインでつなぎ、互いの旋律やアイデアを交換しながら新たな作品を生み出すという、これまでにない挑戦となりました。アジア諸国と三陸の継続的な交流を今後も模索していきます。



○ 中止事業(6プログラム)

No.	事業名	実施主体
1	ふるさとの祭り2021	福島県、ふるさとの祭り実行委員会
2	ヨースロー1000人プロジェクト～千葉から千の響き「和太鼓1000人打ち」	ヨースロー1000人プロジェクト実行委員会
3	とくしま音楽祭2021	徳島県
4	親子のための組踊鑑賞教室「万歳敵討」	文化庁・独立行政法人日本芸術文化振興会、公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団
5	ツナガルアートフェスティバルFUKUOKA	ふくおか県民文化祭福岡県実行委員会
6	東京キャラバン	東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京

(3) 本事業の成果・レガシー

- 全国で実施された各プログラムにおいて、計約11万人(オンラインライブ配信の視聴者数を含む)が参加しました。
- 実施主体の多くが、新型コロナウイルス感染症対策として、オンラインライブ配信をはじめとした映像配信によるイベントの開催や情報発信等を行うなど、ウィズコロナの社会における文化プログラムの実現に向けて、様々な取組を模索しました。
- また、この特別な共催プログラムへの参画により、地域のあらゆる主体間の新たなパートナーシップが構築されるとともに、特に次世代のアーティスト等の育成が進み、各地域の活性化に繋がることが期待されます。

5 フェスティバルパートナー

Official Partners



Supporting Partners



Associating Partners



6 文化・教育委員会

(1) 委員(50音順、敬称略)

委員長	青柳 正規	東京大学名誉教授、多摩美術大学理事長、 奈良県立橿原考古学研究所所長
委員	秋元 雄史	東京藝術大学大学美術館館長・教授、練馬区立美術館館長
	浅葉 克己	アートディレクター、東京タイプディレクターズクラブ理事長
	池坊 専好	華道家元池坊 次期家元
	市川 海老蔵	歌舞伎俳優
	今中 博之	社会福祉法人 素王会 理事長、 アトリエ インカーブ クリエイティブディレクター
	今村 久美	認定NPO法人カタリバ代表理事
	EXILE HIRO	アーティスト、プロデューサー
	小山 久美	昭和音楽大学短期大学部教授
	織作 峰子	大阪芸術大学教授
	桂 文枝	落語家
	喜名 朝博	全国連合小学校長会会長
	絹谷 幸二	東京芸術大学名誉教授、文化功労者
	コシノジュンコ	デザイナー
	真田 久	筑波大学体育系教授
	SHELLY	タレント
	篠田 信子	富良野メセナ協会代表、富良野ブルーリッジ 球団代表
	杉野 学	全国特別支援学校長会顧問、東京家政学院大学教授
	銭谷 眞美	東京国立博物館長
	セーラ・マリ・カミングス	利酒師
	千 宗室	茶道裏千家家元
	田中 稔三	キヤノン株式会社代表取締役副社長 CFO
	野村 萬斎	狂言師、世田谷パブリックシアター芸術監督
	深澤 晶久	実践女子大学文学部国文学科 オリンピック・パラリンピック連携事業推進室 教授・学長補佐
	三田村 裕	全日本中学校長会会長
	宮田 慶子	新国立劇場演劇研修所長
	村田 吉弘	特定非営利活動法人日本料理アカデミー理事長、 菊乃井主人、文化功労者
	山崎 貴	映画監督
	吉本 光宏	株式会社ニッセイ基礎研究所研究理事

2021年3月現在(50音順、敬称略)

(2) 開催実績

① 文化・教育委員会

回	開催日時	議題
1	2015年 5月13日	【議題】東京2020組織委員会の取組状況と文化・教育委員会の進め方について
2	2015年 12月13日	【議題】1 アクション&レガシープランの中間報告について (1) 文化・教育の中間報告(案)について (2) 中間報告後の取組について 2 リオデジャネイロ2016大会における東京2020大会のPRについて
3	2016年 7月14日	【議題】1 アクション&レガシープラン(文化・教育)について (1) アクション&レガシープラン2016の策定に向けて (2) 東京2020参画プログラム(仮称)について 2 今後の文化・教育委員会の運営について 3 TOKYO2020 大会ボランティアプログラムの方向性 4 小中学生からのポスター募集企画
4	2017年 2月24日	【報告】東京2020大会の準備状況 【議題】1 アクション&レガシープラン2017及び東京2020参画プログラムの状況・今後の展開 2 東京2020フェスティバル(仮称)の方向性 3 東京2020教育プログラムの状況・今後の展開 4 開閉会式に向けた基本方針
5	2017年 7月3日	【議題】1 東京2020フェスティバル(仮称)の方向性 2 東京2020参画プログラムの活性化及びアクション&レガシープラン2017
6	2018年 7月2日	【議題】1 東京 2020 NIPPONフェスティバル検討状況報告 2 東京 2020 教育プログラム「ようい、ドン!」の現状報告と今後の計画について
7	2019年 3月19日	【議題】1 東京2020 NIPPONフェスティバル主催プログラム進捗報告 2 東京2020 NIPPONフェスティバル共催プログラム進捗報告 3 東京2020 NIPPONフェスティバルムービングマーク進捗報告 4 東京2020 NIPPONフェスティバルキャッチフレーズについて 5 東京2020 NIPPONフェスティバルの検討体制 6 東京2020教育プログラム「ようい、ドン!」の現状報告と今後の取組予定 7 東京2020組織委員会 活動報告(2018年度)
8	2019年 12月16日	【議題】1 東京2020 NIPPONフェスティバルについて (1) 東京2020 NIPPONフェスティバルの活動報告 (2) 東京2020 NIPPONフェスティバル主催プログラムの検討状況 (3) 東京2020 NIPPONフェスティバル共催プログラムの検討状況 2 東京2020教育プログラム「ようい、ドン!」の進捗報告 3 アクション&レガシーレポート
9	2021年 2月3日 ※書面開催	【議題】東京2020 NIPPONフェスティバルについて

② 東京2020 NIPPON フェスティバル検討ワーキンググループ

回	開催日時	議題
1	2017年 10月30日	【議題】 1 東京2020フェスティバル（仮称）の方向性について 2 組織委員会が主催するプログラムの公募状況について 3 各委員からのご提案について
2	2018年 3月15日	【議題】 1 組織委員会が実施するプログラムの検討状況について 2 フェスティバルのマーク/コンセプトについて 3 フェスティバルの全国への展開について
3	2018年 9月18日	【議題】 1 組織委員会が実施するプログラムの検討状況について 2 共催プログラム の仕組み について

